

熊本大学医学部
における組織評価
自己評価書

平成 26 年 9 月 30 日
5. 医学部

目次

I 熊本大学医学部の現況及び特徴	2
II 教育の領域に関する自己評価書	5
1. 教育の目的と特徴	6
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	13
3. 観点ごとの分析及び判定	14
4. 質の向上度の分析及び判定	32
III 社会貢献の領域に関する自己評価書	33
1. 社会貢献の目的と特徴	34
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	36
3. 観点ごとの分析及び判定	36
4. 質の向上度の分析及び判定	49
IV 国際化の領域に関する自己評価書	50
1. 国際化の目的と特徴	51
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	52
3. 観点ごとの分析及び判定	52
4. 質の向上度の分析及び判定	61
V 男女共同参画に関する自己評価書	62
1. 男女共同参画の目的と特徴	63
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	64
3. 観点ごとの分析及び判定	64
4. 質の向上度の分析及び判定	70
VI 管理運営に関する自己評価書	71
1. 管理運営の目的と特徴	72
2. 優れた点及び改善を要する点の抽出	73
3. 観点ごとの分析及び判定	73
4. 質の向上度の分析及び判定	91

I 熊本大学医学部の現況及び特徴

1 現況

- (1) 学部等名：熊本大学医学部
- (2) 学生数及び教員数（平成 26 年 5 月 1 日現在）
 - 学生数 1,328 人（医学科 702 人、保健学科 626 人）
 - 専任教員数（現員数）：210 人（医学科 157 人、保健学科 53 人）

2 特徴

医学部は、学士（医学）教育課程である 6 年制の医学科と学士（看護学・保健学）教育課程である 4 年制の保健学科の 2 学科で構成され、医学科は 12 学科目、保健学科は 3 専攻からなる。（資料 1）

医学科は、宝暦 6 年（1756 年）に設立された肥後医育機関「再春館」に始まり、昭和 24 年の国立学校設置法に基づき熊本大学医学部医学科となり、平成 16 年に国立大学法人熊本大学医学部医学科となった。保健学科は、明治 31 年（1898 年）に設立された熊本医学校看護学講習科に始まり、昭和 51 年に熊本大学医療技術短期大学部となり、平成 15 年 10 月に医学部に統合され、医学部保健学科となった。

近年の医療の高度化・専門化により、医療人には高度な専門的知識や技術の修得とともに、豊かな人間性、高い倫理観、生命の尊厳への認識が求められている。

医学科は、長い歴史と伝統を有し、日本全国のみならず世界各地において医学医療の発展向上に寄与している。また、卒業後に医師となる医学士を養成する医学教育組織であるため、より強い倫理観に基づき、自浄能力を堅持した相互批判精神に裏打ちされた活力を持った組織である。教育実践を行う教員はヒト（人間）に対するあらゆる分野の生命科学研究を行う研究者であることが前提であり、担当する教育科目に関する最高水準の研究を行うことによって、絶えず教育者としての資質向上を目指している。医学生が誇りと自信を持って学び成長する組織であるとともに、医学生を支える教員と教務担当職員が一丸となって活動している。

従来の講座がイコール学科目担当講座という制度から脱皮し、履修すべき教科目を基にして、複数の分野でも担当できる制度を採用したので、教育内容・カリキュラム等を柔軟に改訂・改善できると共に、一つの学科目に対して様々な視点から教授できるようになっている。また、最新の研究内容の紹介や診療スタイルにより近い実践的臨床教育を含む幅広いカリキュラムを特徴とし、誠実で人間的バランスのとれた医師を育てる教育を実践している。

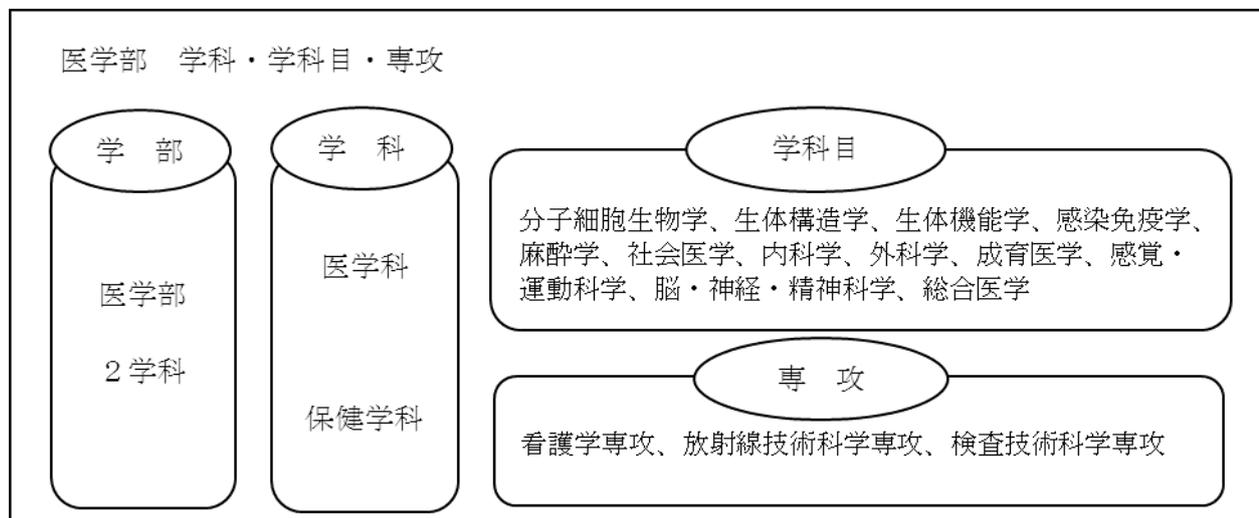
保健学科は、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の教育研究を通し、保健・医療・福祉分野の発展に寄与している教育組織である。地域に密着した保健、医療、福祉活動を行うため、幅広い教養と社会的視野を持ち、自ら問題を見出し解決していく能力や自立的で主体的な判断力を持つこと、さらに国際化社会に対応して諸外国との情報交換や学術交流の推進に貢献できる能力、あるいは発展途上国への保健活動や医療スタッフ養成への支援など医療を通じて国際貢献できる様な能力を持つ医療人を育成することを基本理念とし、看護学、放射線技術科学、検査技術科学の 3 専攻を持つ強みを活かし、今の医療技術者に求められるチーム医療に関する教育を実践している。

一方、医学部を担当する教員は、平成 22 年に大学院医学薬学研究部から発展的に改組された大学院生命科学研究所に所属し、共同研究等を通して医学系・薬学系・保健学系教

員の連携を強めている。また、教育面においては附属病院がある強みを活かし、附属病院職員との連携により教育研究を効果的に実施することができる。医学部を担当する教員は、学生の人材養成に加え、これら生命系との連携により専門性をより深め、その専門的な知識は学会等を通して各学問分野の発展に資するとともに、講演会等を通して一般社会へ専門知識を還元している。

(資料1)

・医学部教育組織



(出典：医学部 Web サイト)

3 組織の目的

急激な変化を遂げる社会情勢において、人々の生活に密着した医療・保健の重要性が改めて再認識されるなか、医学部は、教育研究を通して得られた専門的な知識をそれぞれの学問分野の発展に資すること、一般社会への情報提供、助言・指導等を通して分かりやすく還元することを目的とするとともに、将来、医師・医療技術者として、専門分野の発展に寄与することができる人材や専門的な知識を一般社会へ還元することができる人材の育成を目的としている。

人材の育成に関して、学則第1章総則、第1節目的第1条には、「教育基本法及び学校教育法の精神に則り、総合大学として知の創造、継承及び発展に努め、知的、道徳的及び応用的能力を備えた人材を育成することにより、地域と国際社会に貢献するもことを目的とする」と詠っている。

医学科は、受け入れた医学生を強い倫理観と豊かな人間性を備えた人格を醸成し、医学及びその関連領域における社会的な使命を追求、達成し得る人物を育てることを目的とし、科学的で独創性に富む思考力を涵養すると共に、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことができる人材を育成することにある。このため医学科組織は、医学生を6年間あるいはそれ以上に渡り、1) 医学教育においては基礎医学臨床医学を問わず最高の教育を提供し、学問の教授と医師としての技能を修得させること。2) 課外活動および健康を含めた日常の学生生活上の指導助言を行い全人教育の充実を図ることを目的とする。

保健学科は、次の教育目標を定め、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養及び高度な専門的知識・技術を備え、チーム医療のスタッフとして活動し、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成することを目的とする。

- 1) 命の尊さを深く認識すると共に豊かな教養と人間性に裏打ちされた倫理観をもち人々の役に立つ医療人及び教育専門家を育成する。
- 2) 確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に相応して、チーム医療に対応できる医療人を育成する。
- 3) 高度な専門知識と自主的判断能力、主体的探求能力を備え、先端医療技術の開発に携わることのできる資質を備えた医療人及び教育専門家を育成する。
- 4) 社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざした健康の保持増進や生活の質の向上という社会的要請に対し、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人を育成する。
- 5) 幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動または地域に密着した保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。
- 6) 常に適正な問題意識を持ち、自ら問題を解決していく能力を有し、生涯にわたって学習・成長していくことができる医療人及び教育専門家を育成する。

Ⅱ 教育の領域に関する自己評価書

1. 教育の目的と特徴

目的と特徴

医学科では、「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追究、達成しうる人物を育てるために、科学的で独創性に富む思考力を涵養すると共に、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽をつむことのできる人材教育を実践すること」を教育目標としている。

さらに、平成 25 年度 FD ワークショッププロダクトをもとに、カリキュラム企画・評価委員会において「熊本大学医学部医学科教育成果」(資料 A-1-1-1) の原案を作成した。これは、熊本大学医学部医学科学生が、卒業時に獲得しているべき能力を明文化したもので、教育成果基盤型教育の根幹をなすものである。これらの教育成果を獲得するため、医学科の講義・実習がどのような役割を果たしているかを明示した「教育成果と講義・実習との対応表」(資料 A-1-1-2) も併せて作成し、教員、学生双方が、現在行っている講義・実習が、教育成果のどの項目を獲得する(させる)ために行っているかを把握できるようにした。これらの取り組みにより、教員・学生双方が「何のための講義・実習か」をより具体的に把握できモチベーションの上昇を期待できるとともに、カリキュラムを検証・改善する上でも、「学生にこれらの教育成果を獲得させるため」というより明確なヴィジョンをもって遂行できる。(K01)

医学科の特徴は、将来国内外の医療を担う医師・医学研究者を養成することにある。医学科の所定の課程を履修して取得できる資格は、医師国家試験受験資格であり、卒業後は医師国家試験に全員合格し、優秀な医師や医学者の道に進むことができる医学士を養成する。

(資料 A-1-1-1)

・熊本大学医学部医学科教育成果

熊本大学医学部医学科教育成果

熊本大学医学部医学科教育成果

コア教育成果

- A. 豊かな人間性**
- B. 基本的診療能力**
- C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム**
- D. チーム医療と信頼される医療の実践**
- E. 医科学研究**
- F. 国際的視野**
- G. 地域医療と社会貢献**

教育成果

A. 豊かな人間性

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、病める人たちやその家族の気持ちを理解した対応がとれる。

1. 社会通念や一般常識に基づいて行動し、法規及び規則を遵守する。
2. 患者及びその家族の立場を尊重し、誠実、利他的、共感的に対応できる。
3. 患者及びその家族固有の心理的、社会的、文化的背景に配慮した対応ができる。
4. 医学、医療に影響を及ぼす文化、社会的要因について説明できる。
5. 組織のリーダーとして行動するために、どのような人間性が求められるかを理解する。

B. 基本的診療能力

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医師となるにふさわしい、統合された知識、技能、態度に基づき、全身を総合的に診療するための実践的能力を有する。幅広い疾患の診断論治療論を理解し、一部を実践できる。

【基本的知識】

1. 人の正常な構造と機能、発生、発達、成長、加齢、死、心理、行動について説明できる。
2. 疾患の原因、病態、自然経過、危険因子と予防について説明できる。
3. 治療の原理（薬物治療、放射線治療、外科治療など）について説明できる。
4. 疫学、人口統計、環境、行動科学について説明できる。

熊本大学医学部医学科教育成果

【医療の実践】

5. 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を、患者に配慮しつつ正確に聴取できる。
6. 成人及び小児の基本的診察手技を適切に実施できる。
7. プロブレムリストを立て、鑑別診断を行い、診療録（電子カルテ含む）を作成できる。
8. 疾患の診断と治療に必要な臨床検査、検体検査、画像診断、病理診断を選択し、結果を解釈できる。
9. 疾患の診断と治療について、患者の背景と医学的根拠に基づき、優先順位を考慮して計画できる。
10. 慢性疾患の長期的フォローアップやリハビリテーションに参加できる。
11. 救急医療、集中治療に参加できる。
12. プライマリケアに参加できる。
13. 緩和医療、終末期医療の概要を理解している。
14. 患者教育の概要を理解している。

C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム

熊本大学医学部医学科学学生は卒業時に、医師あるいは医学者としてのキャリアを継続し、生涯にわたって自己学習を継続することができる。高い倫理観をもって、生命の尊厳と人の命と健康を守る医師としての職責を深く認識している。

【自己研鑽】

1. 自己の現状を適切に評価して、目標を設定できる。
2. 自己の目標を達成するための方法を考え、自己学習ができる。
3. 自らのキャリアをデザインし、自己の向上を図るため、達成に向けて学習を継続できる。

【プロフェッショナリズム】

4. 患者にとって最善の治療を提供する意識を持つ。
5. 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者に向き合うことができる。
6. 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。
7. 医療に関連した法規（守秘義務を含む）を遵守する。
8. 情報を適切に管理・利用することができる。

熊本大学医学部医学科教育成果

D. チーム医療と信頼される医療の実践

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、医療は患者を中心におき、多職種の医療構成員よりなるチームで実践されることを理解する。患者やその家族、チーム医療構成員などと良好な信頼関係を築くためのコミュニケーション能力を有する。患者に信頼されるために医療安全やインフォームドコンセントが重要であることを理解する。

【コミュニケーション】

1. 基本的なコミュニケーションスキルを理解し、実践できる。

【チーム医療】

2. 医療職種の専門性を理解し、チーム医療における役割について説明できる。
3. 医師同士や他職種との信頼関係を築くために、コミュニケーションが重要であることを理解する。

【患者に信頼される医療】

4. 医療を実施する上で良好な患者-医師関係を構築できる。
5. 患者及びその家族との良好なコミュニケーションを実践できる。
6. インフォームドコンセントの重要性を理解する。
7. 患者の安全性を確保した医療を実践できる。
8. 医療の安全性と危機管理について説明できる。

E. 医科学研究

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、旺盛な科学的探究心を有する。医学研究の基本を理解し、既存の研究成果を論理的かつ客観的に評価できる。また、現代医学における問題抽出とそれを解決するための研究計画立案を倫理原則に則って行える。

1. 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。
2. 基礎および臨床研究に関する倫理的事項を理解する。
3. 論文等から情報を適切に収集でき、未解決の医科学的問題を抽出し、仮説を立案できる。
4. 立案した計画に基づき医科学の興味ある領域での研究を指導のもと実践できる。
5. 新しい知見を明確に説明し、論理的かつ客観的に評価できる。

F. 国際的視野

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、社会に対する幅広い視野を有し、本邦および国際社会における医療及び保健の現状を理解する。

1. 国際社会において、情報を共有するに足る英語力を有する。

熊本大学医学部医学科教育成果

2. 国内および国際社会に貢献する意欲を持つ。
3. 国際社会における医療及び保健の現状を理解する。
4. 医学・医療の研究、開発が国際社会に貢献することを理解する。

G. 地域医療と社会貢献

熊本大学医学部医学科学生は卒業時に、地域医療の現状と問題点を認識している。地域住民の健康増進に貢献するため、地域の保健・医療・福祉・介護及び行政との連携協力するための知識、技能、態度を有する。

1. 各種保険制度など医療制度を理解する。
2. 患者と患者家族の健康の維持、増進のために地域の保健、福祉、介護施設の適正な活用が重要であることを理解する。
3. 地域の健康・福祉に関する問題を掌握し、疾病予防プランを立てるための知識を習得する。
4. 地域医療の実践が社会貢献に必要であることを理解する。
5. 医学・医療の研究開発が社会に貢献することを理解する。
6. 熊本県固有の事例を通して、熊本県の地域医療を理解する。

(出典：熊本大学医学部医学科教育成果)

(資料 A-1-1-2)

・教育成果と講義・実習との対応表

教育成果と講義・実習との対応表

コア教育成果	教育成果	教養科目					専門基					
		基礎セミナー	ペーシング	情報基盤・日	外国語(英語)	国語(英語)	医学倫理	医学基礎	分子細胞生化学I	最新医学セミナー		
A. 豊かな人間性	1 社会通念や一般常識に基づいて行動し、法規及び規則を遵守する。	E	E	F	F	F	E	D	F	E		
	2 患者及びその家族の立場を尊重し、誠実、利他的、共感的に対応できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	E		
	3 患者及びその家族固有の心理的、社会的、文化的背景に配慮した対応ができる。	F	F	F	F	F	F	D	F	E		
	4 医学、医療に影響を及ぼす文化、社会的要因について説明できる。	E	F	F	F	F	F	E	D	F		
	5 組織のリーダーとして行動するために、どのような人間性が求められるかを理解する。	D	F	F	F	F	F	D	F	E		
B. 基本的診療能力	基本的知識	1 人の正常な構造と機能、発生、発達、成長、加齢、死、心理、行動について説明できる。	F	F	F	F	F	F	D	D	D	
		2 疾患の原因、病態、自然経過、危険因子と予防について説明できる。	F	F	F	F	F	F	D	E	D	
		3 治療の原理(薬物治療、放射線治療、外科治療など)について説明できる。	F	F	F	F	F	F	D	E	D	
		4 疫学、人口統計、環境について説明できる。	F	F	F	F	D	F	D	F	D	
	医療の実践	5 心理、社会的背景を含む患者の主要な病歴を、患者に配慮しつつ正確に聴取できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		6 成人及び小児の基本的診療手技を適切に実施できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		7 プロトコルリストを立て、鑑別診断を行い、診療録(電子カルテ含む)を作成できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		8 病態の診断と治療に必要な臨床検査、身体検査、画像診断、病理診断を識別し、結果を解釈できる。	F	F	F	F	F	F	D	E	D	
		9 病態の診断と治療について、患者の背景と医学的根拠に基づき、優先順位を考慮して計画できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		10 慢性疾患の長期的フォローアップやリハビリテーションに参加できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		11 救急医療、集中治療に参加できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		12 プライマリケアに参加できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		13 緩和医療、終末期医療の概要を理解している。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		14 患者教育の概要を理解している。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
C. 自己研鑽とプロフェッショナリズム	自己研鑽	1 自己の現状を適切に評価して、目標を設定できる。	E	F	F	F	F	D	F	D		
		2 自己の目標を達成するための方法を考え、自己学習ができる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
	プロフェッショナリズム	3 自らのキャリアをデザインし、自己の向上を図るため、達成に向けて学習を継続できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		4 患者にとって最善の治療を提供する意欲を持つ。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		5 常に自分の知識、技能、行動に責任を持って患者に向き合うことができる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		6 倫理的問題を把握し、倫理的原則に基づいて行動できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		7 医療に関連した法規(守秘義務を含む)を遵守する。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		8 情報を適切に管理・利用することができる。	E	D	D	F	F	F	D	F	D	
D. ゲーム医療と信頼される医療の実践	コミュニケーション	1 基本的なコミュニケーションスキルを理解し、実践できる。	C	D	F	F	F	E	D	F	D	
		2 医療職種の専門性を理解し、ゲーム医療における役割について説明できる。	F	F	F	F	F	F	E	D	F	D
	患者に信頼される医療	3 医師同士や他職種との信頼関係を築くために、コミュニケーションが重要であることを理解する。	F	F	F	F	F	F	E	D	F	D
		4 医療を実施する上で良好な患者-医師関係を構築できる。	E	F	F	E	F	E	D	F	D	
		5 患者及びその家族との良好なコミュニケーションを実践できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		6 インフォームドコンセントの重要性を理解する。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		7 患者の安全性を確保した医療を実践できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
		8 医療の安全性と危機管理について説明できる。	F	F	F	F	F	F	D	F	D	
E. 医学研究	1 医学的発見の基礎となる科学的理論と方法論を理解する。	F	F	F	F	D	E	D	F	D		
	2 基礎および臨床研究に関する倫理的事項を理解する。	E	F	F	F	E	D	E	F	D		
	3 未解決の医学的問題を抽出し、論文等から情報を適切に収集できる。	E	F	F	F	E	D	D	F	D		
	4 科学的問題を解決するための研究計画を立案できる。	E	F	F	F	E	E	D	E	D		
	5 立案した計画に基づき医学的興味ある領域での研究を実施できる。	E	F	F	F	E	E	D	E	D		
	6 新しい知見を明確に説明し、論理的かつ客観的に評価できる。	E	F	F	F	E	D	D	E	D		
F. 国際的視野	1 国際社会において、情報を共有するに足る英語力を有する。	F	F	F	D	F	D	D	F	E		
	2 国内および国際社会に貢献する意欲を持つ。	F	F	F	F	F	E	D	F	D		
	3 国際社会における医療及び保健の現状を理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	D		
	4 医学・医療の研究、開発が国際社会に貢献することを理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	D		
G. 地域医療と社会貢献	1 各種保険制度など医療制度を理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	E		
	2 患者と患者家族の健康の維持、増進のために地域の保健、福祉、介護施設の適切な活用が重要であることを理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	E		
	3 地域の健康・福祉に関する問題を把握し、疾病予防プランを立てるための知識を習得する。	F	F	F	F	F	D	D	F	E		
	4 地域医療の実践が社会貢献に必要なことを理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	D		
	5 医学・医療の研究開発が社会に貢献することを理解する。	F	F	F	F	F	E	D	F	D		
	6 熊本県固有の事例を通して、熊本県の地域医療を理解する。	F	F	F	F	F	D	D	F	D		

保健学科は、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻の3専攻からなり、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養と高度な専門知識・技能を備えたチーム医療のスタッフとして活動し、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成することを基本理念としている。教育目標を保健学科全体で6項目掲げ、また各専攻別で、看護学専攻5項目、放射線技術科学専攻5項目、検査技術科学専攻7項目を独自に設定している。

所定の課程を履修することによって、国家試験受験資格等を取得できることが保健学科の特徴である。看護学専攻では、看護師国家試験受験資格・保健師国家試験受験資格・助産師国家試験受験資格である。放射線技術科学専攻では診療放射線技師国家試験受験資格、検査技術科学専攻では臨床検査技師国家試験受験資格である。また、看護学専攻において高等学校教諭一種免許（看護）は、所定科目の単位を修得し卒業と認定された後に、養護教諭二種免許状は、保健師免許取得後に都道府県の教育委員会に申請すれば取得できる。

[想定する関係者とその期待]

医学科では、想定される関係者として、在学生、教職員の他に、医療機関関係者や患者及びその家族、更には地域住民を含め社会全体を対象とし、その期待に応えるために、豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追究、達成しうる人物を養成することが期待される。

保健学科では、在学生、受験生とその家族、卒業生、卒業生を雇用する医療機関関係者、ならびに地域医療の恩恵を受ける患者及びその家族、健康増進を願う地域住民等を関係者として想定している。これらの関係者に対し、質の高い教育プログラムの実施、医療現場で活躍できる人材の育成、医療技術の社会還元への期待に応えるべく、基本理念や教育目標に基づいて医療人を養成することが期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

（医学科）医学科の教育は、標準的なカリキュラムであり、卒業後に医師・医学研究者として第一歩を歩む上での最低限の知識・技能・態度を獲得できるものであると考えられる。さらに、医学科の特徴として、基礎研究の基盤を早期から培うプログラムとして、柴三郎プログラムを構築するなど、全国的にも不足している基礎研究者の育成にも力を入れている。

（保健学科）学位授与の方針や各専攻の学習成果を達成すべく編成・実施された教育課程に基づき様々な取り組みがなされている。これら継続的で質の高い教育活動を反映して高い国家試験合格率、高い就職率を維持している。医療技術の進歩や迅速な変化に対応した柔軟な教育活動に基づくものである。

【改善を要する点】

（医学科）本邦での大学医学教育においては、国際的な医学教育の質保証が求められており、医学教育分野別認証評価制度がスタートしている。その中でも特に臨床参加型臨床実習の推進と臨床実習期間の延長の必要性が問われており、医学科でもこの点について更なる改善が求められており、教育・教務委員会及びカリキュラム企画・評価委員会での検討及び、医学教育分野別認証評価をテーマとした医学教育FDワークショップ実施など、積極的な取り組みを継続して行っていく必要がある。

（保健学科）単位制度の実質化から授業時間以外の学習強化については、重要な位置づけである。しかし、「授業改善のためのアンケート」から明らかなように、学生の自主的な予習・復習に委ねることだけでは十分な改善が期待できていない。学生に対して教育目的や

教育方針を明確に提示するとともに、各授業時間内の小テストや、自学のためのレポートを効率的に活用するなど、学生の自己学習促進に向けて教員が積極的に介入することが必要である。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(医学科)

医学科は、単一専攻科であり独自性のある教育組織を構成するとともに、専門科目は教員が協力体制を組み、学士課程における教育目的が達成できる構成としている。医学科の教育を担当する教員は生命科学研究部の教員組織に属し、専門基礎科目、基礎医学科目(分子細胞生物学、生体構造学、生体機能学、感染免疫学、病態学、社会医学、総合医学)と臨床医学科目(内科学、外科学、成育医学、感覚・運動科学、脳・神経・精神科学、総合医学)さらに医療情報学や漢方医学などを他学部、学内共同教育施設等の協力で、それぞれ連携をとりながら高度な専門知識を医学生に対して教育している。なお、1、2年次の教養教育は教養教育実施機構の統括の下で実施している。(K23)

また、医学科においては教育に係る活動は教育・教務委員会が役割を担い、毎月一回開催し、必要に応じて臨時で開催している。審議事項は、教育課程の編成及び授業に関する事、学生の修学指導に関する事、学生の入学、退学、転学、休学、復学、転部及び卒業に関する事、科目等履修生に関する事、その他教務に関する事である。教育活動に係る重要事項は教育・教務委員会で審議した後、医学科会議及び、医学部運営会議で審議し、最終的な決定を行っている。

入学者選抜に関しては、地域医療を担う医師の確保と養成のために推薦入試の中に地域枠を平成22年より導入、また、医師となるために必要な適性や将来性なども重視するために面接の導入も検討し、平成26年度入試(前期日程)から導入するなどの改革を行ってきた。なお、平成22年度から25年度志願倍率では特に目立った変動は無い(資料A-1-1-3)。

(資料 A-1-1-3)

・医学科入学試験実施状況倍率

年 度	前期日程	後期日程	推薦入試Ⅱ
平成 22 年度	7.3	15.4	3.0
平成 23 年度	8.2	13.5	3.1
平成 24 年度	9.8	17.9	4.0
平成 25 年度	8.1	12.0	2.2
平均倍率	8.4	14.7	3.1

(出典：入試システムより抽出)

(保健学科) 保健学科の教員組織は、各専攻が独自性のある教育組織となっている。看護学専攻は1講座の看護学講座に5分野(基礎看護学・看護教育学・臨床看護学・母子看護学・地域看護学)の構成となっている。放射線技術科学専攻と検査技術科学専攻は1講座の医療技術科学講座に、それぞれ2分野(放射線技術科学専攻：医用理工学・医用画像学、検査技術科学専攻：構造機能解析学・生体情報解析学)の構成となっている。各講座・各

分野において独自性の高い専門教育を担っている。看護学専攻では看護師、保健師及び助産師や高等学校教諭（一種免許（看護））の養成、放射線技術科学専攻では診療放射線技師の養成、検査技術科学専攻では臨床検査技師の養成に必要な教員組織となっている。平成 25 年度時点での専任教員数は 57（男：27、女 30）人、男女比（女／男）は約 1.11、全教員数に女性教員が占める割合は約 52.6%である。専攻別では、看護学専攻 30 人、放射線技術科学専攻 14 人、検査技術科学専攻 13 人である（資料 A-1-1-4）。また、専任教員の年齢構成分布は、25～34 歳 5 人（8.8%）、35～44 歳 8 人（14.0%）、45～54 歳 22 人（38.6%）、55～64 歳 22 人（38.6%）である（資料 A-1-1-5）。

平成 22 年度から平成 25 年度の入試状況倍率は、いずれも大きな変化はなく、全平均で 3.64 と一定の水準である（資料 A-1-1-6）。

教育上の指導能力及び教育活動に関する定期的評価として、「授業改善のためのアンケート」調査を実施し、授業科目毎に学生による評価を受けている。集計されたアンケート結果は、全学のシステムで各教員へ提示され、教員は自己の教育評価を分析するとともにアンケート結果に対するコメントを学生に公開し、教育改善に役立てている。また、質の向上のためにアンケートデータを経時的に分析し、「2012 年度『授業改善のためのアンケート』実施報告書」としてまとめ、本学科の全教員に対する教育改善の啓発に役立てている。さらに、毎年 5 回程度の FD セミナーを継続的に実施している（資料 A-1-1-7）。その中で、教育能力の向上を目指して、平成 25 年度には教員による授業参観も導入している。

教育課程の編成や授業科目に関することは、毎月開催される教務委員会で検討され、検討された事項は、保健学科会議・医学部運営会議で審議している。（K16、K19）

（資料 A-1-1-4）

・教員数一覧

平成 25 年 4 月 1 日現在

部門名	講座名	分野名	教授	准教授	講師	助教	計
環境 社会 医学	看護学	基礎看護学	2(2)	0(0)	2(2)	2(2)	6(6)
		看護教育学	1(1)	1(0)	0(0)	1(1)	3(2)
		臨床看護学	3(2)	3(3)	0(0)	3(3)	9(8)
		母子看護学	0(0)	1(1)	1(1)	3(3)	5(5)
		地域看護学	3(3)	1(1)	0(0)	3(3)	7(7)
		小計	9(8)	6(5)	3(3)	12(12)	30(28)
先端生 命医療 科学	医療技 術科学	医用理工学	3(0)	2(0)	0(0)	2(1)	7(1)
		医用画像学	5(0)	1(0)	0(0)	1(0)	7(0)
		構造機能解析学	4(0)	0(0)	1(0)	1(0)	6(0)
		生体情報解析学	4(0)	1(0)	0(0)	2(1)	7(1)
		小計	16(0)	4(0)	1(0)	6(2)	27(2)
		合計	25(8)	10(5)	4(3)	18(14)	57(30)

（ ）は、女性で内数

（出典：生命科学研究部（保健学系）教員定員現員表より集計）

（資料 A-1-1-5）

・年齢別教員数一覧

年齢区分	人数	割合
25 歳～34 歳	5	8.8%
35 歳～44 歳	8	14.0%
45 歳～54 歳	22	38.6%
55 歳～64 歳	22	38.6%
計	57	100%

（出典：保健学系教員名簿より集計）

(資料 A-1-1-6)

・保健学科入学試験実施状況倍率

	前期日程	後期日程	推薦入試Ⅱ	社会人
平成22年度	2.1	4.7	4.8	3.5
平成23年度	3.0	4.1	4.7	4.0
平成24年度	2.6	3.9	3.2	4.7
平成25年度	2.5	3.9	4.1	2.5
平均倍率	2.55	4.15	4.20	3.68

(出典：入試システムより抽出)

(資料 A-1-1-7)

・保健学系FDセミナー開催実績

年度	実施月	開催場所	内容	参加者数	時間数(時間)
平成22年度	H22.6.30	A312 講義室	第1回FDセミナー「Education and Research In Korea-韓国における保健学教育と研究」	50	1時間
	H22.9.3	C503 講義室	第2回FDセミナー「新任教授の研究紹介と今後の取組」	35	1時間30分
	H22.12.8	C503 講義室	第3回FDセミナー 「①韓国・高麗大学校との学術・学生交流に向けて」 「②大学院における研究活動の活性化と外部資金獲得に向けた方略」	35	1時間50分
	H23.3.30	C503 講義室	第4回FDセミナー 「①博士後期課程授業評価アンケートの結果とその対応に向けて」 「②学部・大学院教育におけるeラーニングの活用」	43	1時間30分
平成23年度	H23.6.21	大会議室 演習室	Graduate Health Professional Education and Faculty Development in the US	40人	2時間
	H23.6.22		UCSFにおける大学院教育・研究のカリキュラム及び指導体制	30人	10時30分～11時30分
	H23.6.29		教員のためのeラーニング実践研修会 セクション1	37人	13時30分～15時00分
	H23.9.16		「意志ある学び-未来教育」プロジェクト学習とポートフォリオ	26人	15時00分～16時30分
	H23.11.2		教員のためのeラーニング実践研修会 セクション2	13人	15時00分～16時30分
	H23.12.12		Arvind Singhal博士の講演	32人	16時30分～17時30分
	H24.2.29		教員のためのeラーニング実践研修会 セクション3	22人	14時30分～16時00分
H24.3.28	大学院保健学教育部学生アンケート調査結果とその対応に向けて	39人	14時30分～15時30分		
平成24年度	H24.5.28	大会議室	平成23年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介	42	1時間30分
	H24.9.20		熊本大学の目指すFD活動の現状と将来展望-医学部保健学科FDに期待するもの	29	1時間30分
	H24.12.25		「eポートフォリオ」の基礎と応用	31	1時間30分
	H25.3.13		大学院授業改善のためのアンケート調査結果とその対応に向けて	33	1時間30分
平成25年度	H25.6.24	大会議室	平成24年度新任教員による研究ならびに教育活動に関する紹介	28	1時間30分
	H25.8.22		大学院生によるパネルディスカッション：大学院教育での学びと期待	23	1時間30分
	H25.11.27		ビデオ供覧による授業参観ならびに意見交換	28	1時間00分
	H26.3.19		平成25年度大学院授業・研究環境改善のためのアンケートの結果報告	40	40分

(出典：大学データ集)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 教育・教務委員会および医学科会議の取り組みや活動は良好であり、一定の成

果が得られ、医学科の組織で想定する関係者の期待に応えている。また、医師国家試験の合格率は平均的であるが、学生の講義や実習における態度も向上し、学問的自由と自律的行動を尊重しつつ、医学生として必要不可欠な教育は提供されている。

(保健学科) 保健学科は、3専攻が目指す人材育成に向けて、学士課程における教育目的を達成する上で適切な構成となっている。「授業改善のためのアンケート」による調査結果を当該教員の教育改善に利用している。ただし、教員による授業参観に関して、継続による定着化や効果の評価が今後の検討課題である。以上から組織編成状況や内部質保証システムに向けての取り組みは良好である。

以上のことから期待される水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・教育方法

(観点に係る状況)

(医学科)

教育カリキュラム

医学科学生の基本的なニーズは、良き医師および優れた医学者になるための基礎能力を6年間で身につけ、医師国家試験に合格することである。教養教育は人格形成およびプロ意識確立、さらには豊かな人間性と広い社会性を身に付けるために重要不可欠な履修科目として位置付けており、教養教育実施を重要視している。医学科では、1年次は週3日間、2年次は週1日、教養教育を受ける。

医学科専門科目はすべてが必修科目となっており、1年次には主に専門基礎科目、基礎医学科目の講義・実習を履修する。また1年次後期に早期社会体験学習を学外の老健施設などの医療施設にて行い、医学・医療を学ぶ動機を高め、その重要性を認識させている。2年次は、主に専門基礎科目、基礎医学科目の講義・実習を履修する。3年次は、前期に基礎医学科目の講義・実習を、後期からは臨床医学科目を履修する。4年次前期には、臨床医学科目の講義を履修し、後期にはチュートリアル実習、臨床実習入門コース、共用試験(CBT, OSCE)を行っている。5年次からは臨床実習を履修する。(K01, K03, K07, K18, K21)。

カリキュラムの検証

医学部医学科におけるファカルティ・ディベロップメント(FD)は、教員の他、研修医及び医学科学生の参加も得て、医学教育ワークショップ(資料 A-1-2-1)として年1回行われている。FDで取り組む内容は、医学科カリキュラムや医学教育全般であり、その成果は、カリキュラム企画・評価委員会、教育・教務委員会及び医学科会議において報告されるとともに、実際に医学科の教育に取り入れる内容については、前記会議において更に検討。審議のうえ、実行に移している。(K16)

授業内容

医学部医学科では、卒業要件に必要な213.5単位は講義、演習、実験、臨床実習等で構成されている。基礎科目は講義中心であるが、基礎科目から臨床科目に進行するに応じて、チュートリアルなどの時間を積極的に導入し、講義と演習あるいは実験、臨床実習を組み合わせた効果的な学習指導を実現し、医学知識を得た後、学生が体験学習できるような授業形態を配慮している。また臨床部門においては、早期より学外の医療施設などでの臨床体験ができるよう工夫している。基礎関連の講義では大人数のものが多く、チュートリアル実習などは、少人数ごとにグループワークを組み入れて討議・発表の時間を設け、知識を自分の体験におきかえられるよう工夫を行っている。

なお、医学科のカリキュラムにおいては、医学教育のガイドラインとして示されている「医学教育モデル・コア・カリキュラム」(資料 A-1-2-2)を基本にしながら、適宜大学及び教員の判断で、生命科学および医療関連領域の諸研究の最新の知見を学生に提示している。(K07, K15, K21, K25, K31)。

授業内容の検証

全学的に実施されている「授業改善のためのアンケート」(資料 A-1-2-3)は、医学科でも授業終了1回前の授業の最後に実施している。その他、医学科では各授業科目終了時点で、学生による授業評価を実施するように授業担当者に働きかけている。アンケートに対しては、担当教員からの意見改善策を提示している (K16)。

特色ある教育プログラム

文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業に採択されたプログラムで、基礎研究の基盤を早期から培う「柴三郎プログラム」を構築している。これは基礎医学研究マインドを持った人材を輩出することを目的としたプログラムで、高校生から生物・医学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し(柴三郎 Jr. の発掘)、その後医学部学生時代(プレ柴三郎コース)から大学院修了(柴三郎コース)までシームレスに研究ができる環境を与え、研究の指導・支援するものである。医学部学生を対象としたプレ柴三郎コースでは、柴三郎コースへ進学を希望する学生を選抜する(5~10人)。まず3年次に行う基礎演習をさらに充実させ、該当学生は基礎演習を3ヶ月間から1年に延長する。従来の基礎演習前後に、通年にわたり通常講義の合間を縫って担当講座での研究活動を継続するものである。さらに科目等履修制度を充実させ、学部4年次からは、科目等履修生として大学院の講義を聴講し、単位を早期取得できるシステムを導入している。(資料 A-1-2-4)

(資料 A-1-2-1)

・医学教育FDワークショップ実施状況(過去5年)

年 度	テーマ	参加人数
平成 21 年度	熊本大学医学部の教育の現状を認識したうえで改善策の提言を行う。(臨床研修制度の見直し等を踏まえた医学教育の改善)	38
平成 22 年度	熊本大学医学部における教育について、現状を認識し、改善の提言を行うための礎とする。	42
平成 23 年度	未実施	
平成 24 年度	診療参加型臨床実習の導入も含めた新たなカリキュラム改訂にむけて、その問題点を指摘し、よりよいプログラムを構築していく。	37
平成 25 年度	カリキュラム構築の基本であり、新たな医学教育の国際認証制度でも重要とされている「成果基盤型医学教育(Outcome Based Education, OBE)」を理解し、熊本大学医学部医学科の使命と教育成果の原案を作成する。	32

(出典：各年度医学教育FDワークショップ資料)

(資料 A-1-2-2)

・医学教育モデル・コア・カリキュラム (表紙)

医学教育モデル・コア・カリキュラム

一教育内容ガイドライン一

平成 22 年度改訂版

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する連絡調整委員会

モデル・コア・カリキュラム改訂に関する専門研究委員会

(出典：医学教育モデル・コア・カリキュラム冊子)

(資料 A-1-2-3)

・ 授業改善のためのアンケート票

＜授業改善のためのアンケート票(医学部医学科用)＞

このアンケートは、本学の授業改善に役立てることを目的に実施するものです。アンケートに、あなたの学生番号・氏名を書く必要はありません。成績評価などについて、あなたが不利益になることはありません。このアンケートに対する回答の集計結果および授業担当教員のコメントは、ホームページ上で公表されます。アンケート票は、全学共通の質問と、各学部等の質問とからなっています。熊本大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

次の注意事項をお守り下さい。

- ①回答はHB黒鉛筆(シャープペンシル可)を使用のこと。
- ②訂正はプラスチック消しゴム等で完全に消すこと。
- ③回答にあたってはマークを完全に塗りつぶすこと。
- ④所定の場所以外は記入しないこと。
- ⑤回答用紙は折り曲げないこと。

学部コード	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱
時間割コード	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	㉖	㉗
	㉘	㉙	㉚	㉛	㉜	㉝	㉞	㉟	㊱
	㊲	㊳	㊴	㊵	㊶	㊷	㊸	㊹	㊺
	㊻	㊼	㊽	㊾	㊿	㋀	㋁	㋂	㋃

※記入例 よい例 ● 悪い例 ○ ✕ ○

多肢選択の質問については、1~4 または 1~5 の中からあてはまる番号を一つ選んで、マークシートの回答番号欄をHBの鉛筆で塗りつぶしてください。また、最後の質問については、あなたの考えを自由に書いてください。

1. 授業の難易度は、どうでしたか。 1 非常に難しかった 2 少し難しかった 3 ちょうどよかった 4 少し易しかった 5 非常に易しかった	① ② ③ ④ ⑤
2. 教員の声は、聞き取りやすかったですか。 1 非常に聞き取りやすかった 2 聞き取りやすかった 3 聞き取りにくかった 4 非常に聞き取りにくかった	① ② ③ ④
3. 授業の手段(教科書・プリント、板書、映像視覚教材(ビデオ、パワーポイントなど)等)は、有効でしたか。 1 非常に有効だった 2 有効だった 3 あまり有効ではなかった 4 全く有効ではなかった	① ② ③ ④
4. Aの授業において、教員との双方向的なやりとり(授業中の質疑応答、受講生のレポートへの教員のコメント、質問カードの利用などが、どの程度行われていましたか。 1 十分に行われていた 2 少し行われていた 3 あまり行われていなかった 4 全く行われていなかった	① ② ③ ④
5. 授業の目標は、どの程度明示されていましたか。 1 十分に明示されていた 2 少し明示されていた 3 あまり明示されていなかった 4 全く明示されていなかった	① ② ③ ④
6. あなた自身は、授業の目標をどの程度達成したと思いますか。 1 十分に達成できた 2 少し達成できた 3 あまり達成できなかった 4 全く達成できなかった	① ② ③ ④
7. 大学の授業の単位は、授業時間の2倍の時間外学習を前提として、取得できることになっています。あなたは、この授業について1週あたり平均して、どの程度、授業時間外の学習(予習・復習、資料収集、文献講読、レポート作成など)をしましたか。 1 3時間以上 2 2時間以上3時間未満 3 1時間以上2時間未満 4 1時間未満 5 全くしなかった	① ② ③ ④ ⑤
8. 全体として、この授業はどの程度有意義でしたか。 1 非常に有意義だった 2 有意義だった 3 あまり有意義ではなかった 4 全く有意義ではなかった	① ② ③ ④

(医学部医学科固有の質問項目)

9. この授業は、医学教育モデル・コア・カリキュラムに沿って行われましたか。 1 そう思う 2 どちらかといえばそう思う 3 どちらかといえばそう思わない 4 そう思わない 5 わからない	① ② ③ ④ ⑤
10. 実習には、あなたはどの程度熱心に取り組みましたか。 1 とても熱心に取り組んだ 2 熱心に取り組んだ 3 あまり熱心に取り組まなかった 4 熱心に取り組まなかった 5 実習はなかった	① ② ③ ④ ⑤
11. 実習時間以外にどの程度自分で勉強しましたか。 1 2時間以上 2 1時間以上2時間未満 3 1時間未満 4 全くしなかった 5 実習はなかった	① ② ③ ④ ⑤
12. 実習目標はどの程度達成できましたか。 1 かなり達成できた 2 達成できた 3 あまり達成できなかった 4 全く達成できなかった 5 実習はなかった	① ② ③ ④ ⑤
13. 教員の実習指導は理解しやすかったですか。 1 とても理解しやすかった 2 理解しやすかった 3 どちらかといえば理解しにくかった 4 理解しにくかった 5 実習はなかった	① ② ③ ④ ⑤
14. 実習への満足度はどの程度ですか。 1 とても満足した 2 満足した 3 あまり満足できなかった 4 全く満足できなかった 5 実習はなかった	① ② ③ ④ ⑤

授業改善のための意見

この授業で、よかった点、改善してほしい点を、具体的に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

(出典：授業改善のためのアンケート票)

(資料 A-1-2-4)

・柴三郎プログラム概要

熊本大学大学院医学教育部 柴三郎プログラム

熊本大学大学院医学教育部
柴三郎プログラム

トップページ 北里柴三郎先生について プログラムの概要 プログラムの詳細 募集要項 ダウンロード お問い合わせ

柴三郎プログラム基金への寄付のご案内

履修学生からのメッセージ

ロゴマークについて

最新のお知らせ一覧

- 医学科1年生のためのラボツアー(後期)が始まりました!
- 北里一郎先生による柴三郎プログラム特別企画セミナーを開催します!
- 柴三郎プログラム便りvol.3が完成しました
- UCLA海外研修の報告会を開催いたしました
- 平成26年度後期プレ柴三郎プログラム学生の募集について

過去ののお知らせ一覧

- 2014年10月
- 2014年9月
- 2014年8月
- 2014年7月

プログラム概要

かつて本校は、“基礎研究医学部”と喻えられるほど最先端の基礎医学研究成果を発信するとともに、基礎医学研究者の育成に努め、多くの基礎研究医を輩出してまいりました。しかし、卒業臨床研修の義務化後、医学科卒の大学院進学者が減少し、臨床講座も人員不足から基礎講座に大学院生を派遣する余裕がなくなっております。その結果、本学医学教育部・博士課程への医学科卒の入学者数は減少傾向にあり、同様に基礎医学系分野で学位を取得する学生も減少傾向にあります。この問題は本校だけでなく全国の医学部が同様の課題を抱えています。

本学医学教育部では、このような現状に危機感を覚え、柴三郎プログラムの構築に取り組んでまいりました。本プログラムは、高校生の時から医学・生命科学研究に興味を持つ人材を発掘・育成し(柴三郎Jr.の発掘)、その後学部時代(プレ柴三郎プログラム)から大学院修了(柴三郎プログラム)までシームレスに研究ができる環境を与え、研究の指導・支援ができるプログラムであります

柴三郎Jr.の発掘 医学部 プレ柴三郎プログラム 柴三郎プログラム 修士課程

キャリアパス

- 海外留学(支援)
- ニュートラック教員
- 臨床研究医師
- 医薬品医療機器総合機構、厚労省など行政

柴三郎プログラムの名称は、本校の前身校である熊本医学部で学ばれた北里柴三郎博士に由来します。柴三郎先生のように世界で活躍する基礎医学研究医を育成したいとの強い気持ちをごて命名いたしました。また、柴三郎先生のご子孫でいらっしゃる北里一郎先生(現Meiji Seikaファルマ株式会社最高顧問)のご厚意により命名させていただきました。本プログラムは文部科学省の「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業に採択され、一部その補助金を用いて運営いたします。

(出典：柴三郎プログラム Web サイト)

(保健学科) 保健学科の専門教育は、専門基礎科目と専門科目の2本柱で構成され、さらに専門基礎科目は各専攻共通の保健医療系基礎科目と各専攻特有の専門基礎科目から構成され、広く医療に関する科目が学べるようになっている。1年次から教養教育と専門教育のくさび形カリキュラムを配置し、早い段階から医療を意識した内容を取り入れるなど、各専攻において体系的な教育課程の編成がおこなわれている。他職種の相互理解も重要と考え、「チーム医療演習」など、3専攻が合同で学習する体制を取り入れている。また、国際的視野で活躍できるように、3専攻共通の保健医療系基礎科目「国際医療・保健活動論」を取り入れている。特に、看護学専攻では専門科目として「国際保健学Ⅰ」「国際保健学Ⅱ」も導入し、国際的に活躍できる医療人の育成に取り組んでいる。各専攻における「リサーチトレーニング」では国際的な研究能力の基礎が習得できるよう配慮している(資料 A-1-2-5)。

保健学科では社会のニーズに対応するために、保健医療系基礎科目である生体防御学や、検査技術科学専攻の専門科目である免疫検査学Ⅱなどを開放科目として、平成22年度から平成25年度まで継続的に提供している。また、平成22年度と平成25年度には研究生や科目等履修生も受け入れている。中国からの学部研究生として平成25年度に1名、韓国からの特別聴講学生として平成23年度に2名、平成24年度に1名、平成25年度に1名

の留学生を受け入れている（資料 A-1-2-6）。放射線技術科学専攻では転学部の学生も受け入れており、22 年度に理学部から 1 名、平成 23 年度に工学部、理学部から各 1 名の実績となっている。

効果的な教育方法の工夫として、学位授与方針に基づき講義と演習あるいは実験を組み合わせた効果的な学習指導を実現し、知識を得て学生が体験できるような授業形態を配慮している（資料 A-1-2-5）（資料 A-1-2-7）。また、学生が各授業へ取り組みやすいように保健学系 FD 委員会を中心として平成 24 年度のシラバスチェックを実施し改善に努めている（資料 A-1-2-8）。

保健学科学生の自主学習環境としては、2 階の自習室（A201a・A201b・A201c）、第一情報演習室（A204：パソコン 48 台）、第二情報演習室（B201：パソコン 32 台）と 3 階の保健学図書室（C302）、学生閲覧室（C308・C309）が利用可能である。また、各専攻で使用する教室等も解放している。無線 LAN の環境も整備され利用しやすい環境となっている。ただし、学生の授業時間以外の学習時間については、平成 24 年度の「授業改善のためのアンケート」から 51%の学生が、また平成 23 年度では 54%の学生が「1 時間未満」、「まったくしなかった」と回答している（資料 A-1-2-9）。

（K14、 K27）

(資料 A-1-2-5)

・保健学科の授業科目・単位数 (看護学専攻)

看護学専攻				(2) 専門科目					
(1) 専門基礎科目				区分					
区分	授業科目	単位数	必修	選択	区分	授業科目	単位数	必修	選択
保健医療系基礎科目(各専攻共通)	生体の構造と機能	2	◎		基礎看護学	看護倫理	1	◎	
	人体構造学Ⅰ	2	◎			看護管理学概論	1	◎	
	人体構造学Ⅱ	2	◎			看護方法論Ⅰ	3	◎	
	生体機能学Ⅰ	2	◎			看護方法論Ⅱ	2	◎	
	生体機能学Ⅱ	2	◎			看護方法論Ⅲ	1	◎	
	生化学Ⅰ	1		○		看護方法論Ⅳ	1	◎	
	生体防御学	1	◎			基礎看護学実習Ⅰ	1	◎	
	遺伝学	1		○		基礎看護学実習Ⅱ	2	◎	
	病原生物学Ⅰ	1	◎			看護科教育Ⅰ	2		○
	臨床薬理学	1	◎			看護科教育Ⅱ	2		○
	病理学Ⅰ	2	◎		現代教師論	2		○	
	医学概論	1		○	教育学概論	2		○	
	臨床医学総論Ⅰ	2	◎		教育心理学	2		○	
	看護学概論	2	◎		教職保健	2		○	
	救急医学概論	1		○	教育課程基礎論	2		○	
	チーム医療演習	1	◎		教育方法・技術	2		○	
	社会福祉論	1	◎		生徒指導の心理学	2		○	
	医事法	1	◎		教育相談	2		○	
	環境衛生学Ⅰ	1		○	教育実習	3		○	
	保健衛生統計学	2	◎		教職実践演習(高)	2		○	
医療外国語	2		○	成人看護学概論	1	◎			
国際医療・保健活動論	1	◎		成人臨床看護学Ⅰ	1	◎			
保健医療系基礎科目(各専攻共通)小計	30			成人臨床看護学Ⅱ	1	◎			
専門基礎科目	看護・医療系英語Ⅰ	1	◎		成人臨床看護学Ⅲ	1	◎		
	看護・医療系英語Ⅱ	1	◎		成人臨床看護学Ⅳ	1	◎		
	保健医療福祉行政論Ⅰ	2	◎		成人臨床看護学実習Ⅰ	3	◎		
	保健医療福祉行政論Ⅱ	1		○	成人臨床看護学実習Ⅱ	3	◎		
	臨床医学総論Ⅱ	2	◎		学	実践看護学実習	2		○
	臨床栄養学	1	◎		精神保健看護学	1	◎		
臨床検査医学概論	1		○	精神臨床看護学Ⅰ	1	◎			
放射線医学概論	1		○	精神臨床看護学Ⅱ	2	◎			
専門基礎科目(看護学専攻)小計	10			精神看護学	精神看護学実習	2	◎		
合 計	40			小児看護学	小児保健看護学	1	◎		
備 考	*保健医療系基礎科目(各専攻共通)の選択科目と専門基礎科目(看護学専攻)の選択科目より2単位以上を選択する。				小児看護学	小児臨床看護学Ⅰ	1	◎	
					小児看護学	小児臨床看護学Ⅱ	2	◎	
					母性看護学	母性保健看護学	1	◎	
					母性看護学	母性看護学実習	2	◎	
					助産学	助産学概論	1		○
					助産学	リプロダクティブヘルス/ライツⅠ	1		○
					助産学	リプロダクティブヘルス/ライツⅡ	1		○
					助産学	新生児学	1		○
					助産学	周産期運動生理学	1		○
					助産学	助産診断・技術学Ⅰ	2		○
					助産学	助産診断・技術学Ⅱ	2		○
					助産学	助産診断・技術学Ⅲ	2		○
					助産学	母性の心理・社会学	1		○
					助産学	母子援助論	1		○
					助産学	地域母子保健論	1		○
					助産学	助産管理論	2		○
					助産学	助産学実習	9		○
					地域看護学	公衆衛生看護学概論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	地域統計情報論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	健康教育論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	ライフスタイルと健康援助論	1	◎	
					地域看護学	住民健康学習論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	住民健康学習論Ⅱ	1	◎	
					地域看護学	地域特性健康論Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	学校・産業保健	1	◎	
					地域看護学	国際保健学Ⅰ	1	◎	
					地域看護学	在宅看護論	2	◎	
					地域看護学	在宅ケア実習	2	◎	
					地域看護学	公衆衛生看護学実習	5		○
					地域看護学	公衆衛生看護学概論Ⅱ	1		○
					地域看護学	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	2		○
					地域看護学	地域統計情報論Ⅱ	1		○
					地域看護学	健康教育論Ⅱ	1		○
					地域看護学	地域特性健康論Ⅱ	1		○
					地域看護学	国際保健学Ⅱ	1		○
					地域看護学	公衆衛生看護学管理論	1		○
					老年看護学	老年看護学概論	1	◎	
					老年看護学	老年生活ケア論	1	◎	
					老年看護学	老年看護学	2	◎	
					老年看護学	老年看護学実習	4	◎	
					共通	看護情報学	1		○
					共通	緩和ケア	1	◎	
					共通	感染看護学	1	◎	
					統合	リサーチトレーニングⅠ	1	◎	
					統合	リサーチトレーニングⅡ	1	◎	
					統合	災害看護	1	◎	
					統合	看護技術の統合と医療安全	1	◎	
					統合	統合実習	2	◎	
					合 計		141		

備考 *専門科目の選択科目から1単位以上を選択する。

・保健学科の授業科目・単位数（放射線技術科学専攻、検査技術科学専攻）

放射線技術科学専攻					
(1) 専門基礎科目					
区分	授業科目	単位数	必修	選択	
保健医療系基礎科目（各専攻共通）	機能と構造	人体構造学Ⅰ	2	◎	
		人体構造学Ⅱ	2	◎	
		生体機能学Ⅰ	2	◎	
		生体機能学Ⅱ	2	◎	
		生化学Ⅰ	1	◎	○
		生体防御学	1	◎	○
	疾病と医学・医療	遺伝学	1	◎	○
		病原生物学Ⅰ	1	◎	○
		臨床薬理学	1	◎	○
		病理学Ⅰ	2	◎	
		医学概論	1	◎	
		臨床医学総論Ⅰ	2	◎	
	保健・福祉・環境	看護学概論	2	◎	
		救急医学概論	1	◎	○
チーム医療演習		1	◎		
社会福祉論		1	◎	○	
医事法	1	◎			
環境衛生学Ⅰ	1	◎			
保健衛生統計学	2	◎	○		
医療外国語	2	◎			
国際医療・保健活動論	1	◎	○		
保健医療系基礎科目（各専攻共通）小計		30			
専門基礎科目（放射線技術科学専攻）	応用数学Ⅰ	1	◎		
	応用数学Ⅱ	1	◎		
	医用統計学	1	◎	○	
	画像数学演習	1	◎	○	
	基礎物理学	2	◎		
	放射線物理学Ⅰ	2	◎		
	放射線物理学Ⅱ	2	◎		
	放射線物理演習	1	◎	○	
	放射化学	2	◎		
	放射化学実験	1	◎		
	放射線計測学Ⅰ	1	◎		
	放射線計測学Ⅱ	1	◎		
	放射線管理・計測学実験	1	◎		
	放射線生物学	2	◎		
	医用工学Ⅰ	2	◎		
医用工学Ⅱ	2	◎			
医療情報基礎演習	1	◎			
専門基礎科目（放射線技術科学専攻）小計		24			
合計		54			

備考＊保健医療系基礎科目（各専攻共通）の選択科目より2単位以上を選択する。
＊専門基礎科目（放射線技術科学専攻）の選択科目より1単位以上を選択する。

(2) 専門科目					
区分	授業科目	単位数	必修	選択	
専門科目	診断画像技術学	X線機器工学	2	◎	
		C T検査技術学	2	◎	
		超音波検査技術学	2	◎	
		画像機器工学実験	1	◎	
		X線検査技術学Ⅰ	2	◎	
		X線検査技術学Ⅱ	2	◎	
		MR検査技術学	2	◎	
		臨床医学総論Ⅱ	2	◎	
		画像解剖学	2	◎	
		画像診断学Ⅰ	2	◎	
画像診断学Ⅱ	2	◎			
診断画像技術学演習	1	◎	○		
検査技術学	核医学機器工学	2	◎		
	核医学検査学	2	◎		
	核医学診断学	2	◎		
	核医学検査技術学演習	1	◎	○	
放射線治療技術学	放射線治療機器工学	2	◎		
	放射線治療技術学	2	◎		
	放射線腫瘍学	2	◎		
	放射線治療技術学演習	1	◎	○	
情報画像	デジタル画像処理論	2	◎		
	デジタル画像処理演習	1	◎		
	医用画像情報学	2	◎		
臨床実習	医用画像情報学実験	1	◎		
	医用画像情報学演習	1	◎	○	
	放射線関係法規	2	◎		
実臨床	医用安全管理学	2	◎		
	撮影技術学実習	2	◎		
	臨床実習Ⅰ	1	◎		
特別科目	臨床実習Ⅱ	7	◎		
	リサーチトレーニング（卒業研究）	4	◎		
合計		61			

備考＊専門科目の選択科目から3単位以上を選択する。

検査技術科学専攻					
(1) 専門基礎科目					
区分	授業科目	単位数	必修	選択	
保健医療系基礎科目（各専攻共通）	機能と構造	人体構造学Ⅰ	2	◎	
		人体構造学Ⅱ	2	◎	
		生体機能学Ⅰ	2	◎	
		生体機能学Ⅱ	2	◎	
		生化学Ⅰ	1	◎	○
		生体防御学	1	◎	○
	疾病と医学・医療	遺伝学	1	◎	○
		病原生物学Ⅰ	1	◎	○
		臨床薬理学	1	◎	○
		病理学Ⅰ	2	◎	
		医学概論	1	◎	
		臨床医学総論Ⅰ	2	◎	
	保健・福祉・環境	看護学概論	2	◎	
		救急医学概論	1	◎	○
チーム医療演習		1	◎		
社会福祉論		1	◎	○	
医事法	1	◎			
環境衛生学Ⅰ	1	◎			
保健衛生統計学	2	◎	○		
医療外国語	2	◎			
国際医療・保健活動論	1	◎	○		
保健医療系基礎科目（各専攻共通）小計		30			
専門基礎科目（検査技術科学専攻）	環境衛生学Ⅱ	1	◎		
	環境衛生学実習	1	◎		
	国際保健衛生学	1	◎	○	
	医療情報処理学	1	◎		
	医療工学	1	◎		
	医療工学実習	1	◎		
専門基礎科目（検査技術科学専攻）小計		6			
合計		36			

備考＊保健医療系基礎科目（各専攻共通）の選択科目と専門基礎科目（検査技術科学専攻）の選択科目より1単位以上を選択する。

(2) 専門科目					
区分	授業科目	単位数	必修	選択	
専門科目	臨床検査学	臨床病態学概論Ⅰ	2	◎	
		臨床病態学概論ⅠⅠ	2	◎	
		臨床医学特論	1	◎	
		人体構造学実習	1	◎	
		病理学ⅠⅠ	1	◎	
		病理学実習	1	◎	
		病理検査学	1	◎	
		病理検査学実習	1	◎	
		病理検査学特論	1	◎	○
		血液検査学Ⅰ	1	◎	
		血液検査学ⅠⅠ	1	◎	
		血液検査学実習Ⅰ	1	◎	
		血液検査学実習ⅠⅠ	1	◎	
		血液検査学特論	1	◎	○
		生化学ⅠⅠ	1	◎	
		生化学実習	1	◎	
		臨床化学Ⅰ	1	◎	
		臨床化学ⅠⅠ	1	◎	
		臨床化学実習	1	◎	
		臨床化学特論	1	◎	○
		遺伝子検査学	1	◎	
		遺伝子検査学実習	1	◎	
		放射性同位元素検査学	1	◎	
		放射性同位元素検査学実習	1	◎	
		分子病態学	1	◎	
		分子生物学	1	◎	
		生命工学概論	1	◎	○
		免疫検査学Ⅰ	1	◎	
		免疫検査学ⅠⅠ	1	◎	
		免疫検査学実習	1	◎	
		免疫検査学特論	1	◎	○
		輸血検査学	1	◎	
		輸血検査学実習	1	◎	
		病原生物学ⅠⅠ	1	◎	
		病原生物学実習	1	◎	
		病原生物検査学	1	◎	
		病原生物検査学実習	1	◎	
		病原生物検査学特論	1	◎	○
		医動物学	1	◎	
		医動物学実習	1	◎	
生体機能学実習	1	◎			
生理機能検査学Ⅰ	1	◎			
生理機能検査学ⅠⅠ	1	◎			
生理機能検査学ⅠⅠⅠ	1	◎			
生理機能検査学実習	1	◎			
生理機能検査学特論	1	◎	○		
画像検査学	1	◎			
画像検査学実習	1	◎			
画像検査学特論	2	◎			
臨床検査総論Ⅰ	1	◎			
臨床検査総論ⅠⅠ	1	◎			
臨床検査総論実習	1	◎			
検査機器管理特論	2	◎			
検査情報管理特論	2	◎			
臨地実習	7	◎			
リサーチ・トレーニング	4	◎			
合計		70			

備考＊専門科目の選択科目から4単位以上を選択する。

（出典：保健学科学生便覧）

(資料 A-1-2-6)

・外国人留学生受入状況

身分	専攻	国籍	受入期間
特別聴講学生	放射	韓国	2011. 10. 1～2012. 9. 30
特別聴講学生	放射	中国	2011. 10. 1～2012. 9. 30
特別聴講学生	放射	韓国	2012. 10. 1～2013. 9. 30
学部研究生	看護	韓国	2013. 10. 1～2014. 9. 30
特別聴講学生	放射	韓国	2013. 10. 1～2014. 9. 30

(出典：留学生名簿から抽出)

(資料 A-1-2-7)

・学位授与方針

3. 医学部保健学科の学位授与方針

学位：学士（看護学）保健学科看護学専攻
 学士（保健学）保健学科放射線技術科学専攻
 学士（保健学）保健学科検査技術科学専攻

【1】 学位授与の方針（3専攻共通）

医学部保健学科は、学士課程において、「命の尊さを深く認識するとともに、豊かな教養と人間性に裏付けられた倫理観および確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に即応して、チーム医療に対応できる医療人、ならびに社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざし、かつ国際的視野で健康の保持増進や生活の質向上、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人の育成」を目的としている。このことを踏まえ、各専攻が定める学習成果を達成すべく編成・実施された教育課程を学修し、医療従事者、教育・研究者として必要とする専門分野において所定の単位と資質を取得した者に学位を授与する

【2】 学習成果

看護学専攻

【豊かな教養】

- ・人間の成長発達や人間の心理学的現象について必要な知識を説明できる
- ・社会学や哲学を通し、人と環境との相互作用に関する知識を説明できる
- ・自分の課題や関心において、自発的に学習することができる

【確かな専門性】

・看護学のメタパラダイムである人間、環境、健康・保健、看護に関する理論を説明できる

- ・からだやこころの構造・機能、疾病に関する病態生理が説明できる
- ・看護実践において必要とされる知識と技術を説明、実施することができる

【創造的な知性】

- ・看護学における課題を設定し、解決することができる
- ・関心領域や社会的問題の事象に関し、討議することができる

【社会的な実践力】

- ・人との間で相互作用をし、相手のおかれている状況を理解し、説明できる
- ・看護以外の社会における現象に関心をもち、一市民として参加することができる

【グローバルな視野】

- ・国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる

・外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる

【情報通信技術の活用力】

・課題に応じて情報処理技術を駆使し、目的に対する情報分析を行うことができる

【汎用的な知力】

・他分野の専門家と情報を交換し、自分の立場で意見を述べるができる

・自分の関心領域に関する文献、図書を検討し、理解し、要約して人に伝えることができる

放射線技術科学専攻

【豊かな教養】

・医療における役割と現状について説明することができる

【確かな専門性】

・放射線技術科学における診療機器類の原理を理解し、活用することができる

・放射線技術科学における画像検査技術と放射線治療技術を修得し、説明できる

・法規制にしたがった放射線の安全な取扱いと管理ができる

・撮影された画像と生体内部の臓器の関係を理解し、説明できる

・画像診断の過程を論理的に理解し、説明できる

【創造的な知性】

・放射線技術科学領域における課題を見出し、その解決法を見出すことができる

・スライドの作成から口頭による研究発表および論理的な討議を行うことができる

・研究成果を明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、論文としてまとめることができる

【社会的な実践力】

・患者に不安を与えないような接遇ができる

【グローバルな視野】

・医療技術に関する英語の文献を読解することができる

【情報通信技術の活用力】

・実験データの処理や統計的処理のためにコンピュータを利用することができる

【汎用的な知力】

・保健学科の他の専攻の学生や医療施設の医療技術者と、医療技術に関するコミュニケーションができる

検査技術科学専攻

【豊かな教養】

・社会の一員として幅広い教養に裏付けられた豊かな人間性と広い社会的視野を持つ

【確かな専門性】

・臨床検査技術科学の基本的理論・概念について説明することができる

・病気の診断治療や健康状態の把握に必要な医学的検査法に習熟している

【創造的な知性】

・臨床検査技術科学の最新動向について様々な情報源から自律的に学ぶことができる

・課題に対する研究方法、解析技術等を理解し、柔軟な発想と論理的思考から仮説を検証できる

【社会的な実践力】

・文化・社会に関する一般的な理解と関心を持ち、医療従事者としての職業観、倫理観を培うことができる

【グローバルな視野】

・自然・生命・医学・医療に関する基本的な理解と広い視野を持っている

・英語の文献を読解するとともに、英語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる

【情報通信技術の活用力】

・ITを利用し、情報の収集・分析や交換を行うことができる

【汎用的な知力】

・明晰な論理の筋道と説得力ある表現を用いて、情報や意見を伝えることができる

【3】カリキュラム編成方針（3専攻共通）

体系性：各分野の学問体系を基盤とし、国家資格取得に必要とする科目群で教育課程を編成している

段階性：基礎的な科目により幅広い知識を修得し、学年進行に沿って応用的・発展的ならびに実務的な科目を学習できるよう編成している

個別化（進路への対応）：各年次に各専攻分野を構成する専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証するように編成している

（出典：保健学科学生便覧）

（資料 A-1-2-8）

・平成24年度保健学科シラバスチェック結果

評価項目		合計点（総計 40ポイント）	達成率（%）	
(1)	授業形態	40	100.0	
(2)	授業の目標	学習の到達目標	40	100.0
		学生を主体として	10	25.0
		文字数	38	95.0
(3)	授業内容	項目や重要な概念	39	97.5
		15回の授業内容・相互関連	23	57.5
		文字数	38	95.0
(4)	キーワード	36	90.0	
(5)	テキスト	37	92.5	
(6)	参考文献	27	67.5	
(7)	評価方法	評価方法および割合	14	35.0
		評価基準の明示	11	27.5
(8)	履修上の指導（注意）	40	100.0	
(9)	事前学習	34	85.0	
(10)	事後学習	37	92.5	

※24年度開講科目総数 361 科目、調査対象抽出科目数 40 科目（11%）

（出典：平成24年度 医学部保健学科におけるシラバスチェックの実施報告書）

（資料 A-1-2-9）

・2012年度「授業改善のためのアンケート」実施報告書（抜粋）

設問7「授業時間以外の学習をどの程度しているか」の問いに対しては、51%の学生が「1時間未満」および「まったくしなかった」と答えている。一方、2011年度の設問7の「授業時間以外の学習をどの程度しているか」に対する回答では54%の学生が「1時間未満」および「まったくしなかった」と答えていることから、2012年度では、わずかに改善の傾向がみられるものの、依然として約半数の学生は授業時間以外の学習時間が1週間あたり1時間未満であり、早急な対応策の検討が望まれる。授業時間以外の学習強化については、学生の自主的な予習、復習に委ねることだけでは十分な改善が期待できないことから、各授業時間内の小テストや、自学のためのレポートを効率的に活用

するなどして、学生の自己学習促進に向けて教員が積極的に介入することも今後は必要となるものと考えられる。これらの調査結果を、FD 委員会から各教員にフィードバックして、改善策への取り組みを促すことが必要と思われる。

(出典：2012 年度「授業改善のためのアンケート」実施報告書)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医師国家試験の合格率は全国平均的である。学生の講義や実習における態度も向上している。学生の学問的自由と自律的行動を尊重しつつ、医学生として必要不可欠な教育は提供されている。したがって、教育課程が教育の目的に照らして体系的に編成されており、その内容、水準、授与される学位名において適切であると判断する。

(保健学科) 保健学科の学位授与方針に基づき様々な教育方法の工夫や改善がなされている。ただし、学生の主体的学習については、平成 24 年度でわずかに改善の傾向がみられるものの、約半数の学生が授業時間以外の学習時間が 1 週間あたり 1 時間未満であり、今後検討が必要である。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科では全学の方針に準拠して、厳格で公正な成績評価を行った上で単位認定を行っている。教育内容の質は医学教育モデル・コア・カリキュラムを基本にした教育内容の確保、学生による授業評価アンケートによる授業改善、厳格な出欠席チェック、そして学生の科目習得度を適格に測定できる試験を行うことによって維持している。また、講義のみでなく、基礎医学では実験、臨床医学においてはチュートリアル、臨床実習、特別選択実習においても教育達成度が十分に反映する形の単位認定を行っており、様々な側面から単位の実質化に配慮している。

卒業予定者については、卒業試験の結果について卒業判定会議にて検討・評価している。新卒者の医師国家試験合格率(資料 A-2-1-1)は年度によっては変動があるものの、80%後半から 90%台を維持している。(K14)。

資料 A-2-1-1 医師国家試験合格者状況(新卒者)

年 度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
受験者数(人)	87	104	98	102	103
合格者数(人)	79	92	96	89	98
合格率(%)	90.8	88.5	98.0	87.3	95.1

(出典：医師国家試験合格状況資料)

(保健学科) 保健学科は、ほとんどの学生が 4 年ですべての単位を取得し卒業している。最大 8 年までの修業年数を含む修業人数に対する 4 年での修業人数の割合は、平成 22 年度で 91.3%、平成 25 年度で 87.0%と高い数値を維持している(資料 A-2-1-2)。

また、平成 22 年度から 25 年度までの国家試験の平均合格状況は、看護師 99.3%、保健師 96.8%、助産師 98.2%、診療放射線技師 95.1%、臨床検査技師で 94.9%と全国平均に比べても高い数値を維持している(資料 A-2-1-3)。さらに、学業の達成度や満足度に関する定

期的評価として、全学的な「授業改善のためのアンケート」調査を実施し、学生から見た授業の意義や難易度、目標の達成度、さらに、教員の熱意の程度を調査している。FD委員会ではアンケートデータを経時的に分析し、FDセミナー実施報告書としてまとめ、本学科の全教員に対する教育改善の啓発に役立っている。(資料 A-2-1-4) (K16)

(資料 A-2-1-2)

- 卒業者の修業年別人数および4年での修業率

年度(平成)	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
看護学専攻	79	75	69	67
放射線技術科学専攻	33	35	34	32
検査技術科学専攻	24	26	28	35
4年での修業人数(a)	136	136	131	134
年度全体の修業人数(b)	149	157	147	154
修業率(*)	91.3	86.6	89.1	87.0

* 修業率は $a/b \times 100$ (%) で計算

(出典:卒業者の修業年数別人数一覧より集計)

(資料 A-2-1-3)

- 平成22年度から平成25年度までの国家試験合格状況

	年度	H22	H23	H24	H25
看護師	受験者数	71	70	67	68
	合格者数	70	69	67	68
	合格率(%)	98.6	98.6	100	100
	全国平均(%)	91.8	90.1	88.8	89.8
保健師	受験者数	80	78	72	73
	合格者数	75	74	71	73
	合格率(%)	93.8	94.9	98.6	100
	全国平均(%)	86.3	86.0	96.0	86.5
助産師	受験者数	14	14	13	12
	合格者数	14	13	13	12
	合格率(%)	100	92.9	100	100
	全国平均(%)	97.2	95.0	98.1	96.9
診療放射線技師	受験者数	36	39	35	35
	合格者数	35	38	31	34
	合格率(%)	97.2	97.4	88.6	97.1
	全国平均(%)	71.1	83.4	66.6	76.5
臨床検査技師	受験者数	30	37	39	41
	合格者数	30	35	34	40
	合格率(%)	100	94.6	87.2	97.6
	全国平均(%)	67.0	75.4	77.2	81.2

(出典:国家試験合格者一覧)

(資料 A-2-1-4)

- 授業改善のためのアンケート集計結果(抜粋)

II. 2012年度前学期・後学期の集計結果の分析
1. 平均値および標準偏差に着目して特徴的な傾向をまとめる

前学期・後学期ともに、「Q1. 授業の難易度」の平均値が 2.0 未満は認められなかった。「Q2. 授業の聞き取りやすさ」・「Q3. 授業手段の有効性」・「Q4. 教員との双方向性やりとり」・「Q5. 授業目標の明示」・「Q6. 学生の学習達成度」のそれぞれの平均値が 2.5 以上のものも認められなかった。「Q8. 授業の有意義度」についても 2.5 以上ならびに「Q7. 自己学習時間」の平均値が 4.0 以上を示した科目は全く認められなかった。したがって、概ね上記質問項目については良好な評価を得ているものと思われた。

【授業目標の把握と達成度等】

2012 年度の設問 5「授業目標の明示」については 89%の学生が「十分明示されていた」および「少し明示されていた」という回答であった。また、設問 6「授業目標の達成度」については、「十分に達成できた」および「少し達成できた」を合わせて 78%の回答があった。2011 年度の同じ設問では 72%であったことから、やや改善傾向にあるものと推察される。教員の指導体制の変更はないが、カリキュラム改正が行われた専攻や一部授業内容が変更した科目もあるため、今後の推移をみていく必要がある。

(出典：2012 年度「授業改善のためのアンケート」実施報告書)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 医学科の教育は、「医学教育モデル・コア・カリキュラム (教育内容ガイドライン)」に基づいており、効果的な教育内容となっている。その成果として、医師国家試験の合格率については高い水準を維持している。

(保健学科) 「授業改善のためのアンケート」における評価の改善傾向は、本学科におけるシラバス改善の啓発や、教育方法の改善を促す FD 活動の活性化とそれに伴う教員の学生教育に対する意識の変化が関与しているものである。

以上のことから期待される水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点到に係る状況)

(医学科) 医学科の学生は、卒業後全員が医師国家試験を受験し、合格すると医師となり、2年間の卒後研修を行うことになっている。初期研修後は医学部附属病院やその他の病院に就職するコースと、大学院に進学するコースが用意されている。また就職しても社会人大学院生として研究活動を行うこともできる。

医学科の特徴として、医学生は全員医師となる単一職種を目指す集団であり、就職活動等はしていないので、卒業(修了)生や、研修先等の関係者からの意見聴取は組織的には実施していない (K30)。

(保健学科) 保健学科は、各専門分野の特性を生かした就職先であり、一部の卒業生は大学院に進学している。平成 22 年度から平成 25 年度までにおける卒業時の進路決定率は、看護学専攻で 98.0%、放射線技術科学専攻で 96.0%、検査技術科学専攻で 98.2%と高い数値となっている (資料 A-2-2-1)。就職先としては、多くが熊本県内あるいは九州・沖縄地区の国公立や民間の病院、県市職員、企業などに就職している (資料 A-2-2-2)。就職先等の関係者へ卒業生に対する意見聴取等は現在実施していないが、保健学科同窓会を毎年開催し、その中で学生と卒業生との交流や、卒業生からの保健学科に対する要望等について意見聴取を行っている。

(資料 A-2-2-1)

- 平成 22 年度から平成 25 年度までの卒業生進路状況

看護学専攻				
年度	H22	H23	H24	H25
卒業生	80	78	72	73
就職者	75	71	70	68
進学者	4	5	2	2

放射線技術科学専攻				
年度	H22	H23	H24	H25
卒業生	38	40	36	37
就職者	31	34	27	25
進学者	6	5	8	9

検査技術科学専攻				
年度	H22	H23	H24	H25
卒業生	31	39	39	44
就職者	27	34	30	34
進学者	4	5	7	9

(出典：卒業生の進路状況一覧より集計)

(資料 A-2-2-2)

- 平成 25 年度卒業生就職先一覧

看護学専攻 (卒業生 73 名)			放射線技術科学専攻 (卒業生 37 名)			検査技術科学専攻 (卒業生 44 名)		
(就職)			(就職)			(就職)		
国公立、民間病院	熊本県	30	国公立、民間病院	熊本県	6	国公立、民間病院	熊本県	8
県市職員	熊本県	2						
国公立、民間病院	九州圏内	21	国公立、民間病院	九州圏内	17	国公立、民間病院	九州圏内	23
県市職員	九州圏内	2						
国公立、民間病院	九州圏外	12	国公立、民間病院	九州圏外	2	国公立、民間病院	九州圏外	1
県市職員	九州圏外	1				企業	九州圏外	2
その他		3	その他		3	その他		1
就職小計		71	就職小計		28	就職小計		35
(進学)			(進学)			(進学)		
	熊本県	1		熊本県	8		熊本県	9
	九州圏内	1		九州圏内	1			
進学小計		2	進学小計		9	進学小計		9

(出典：卒業生の進路状況一覧より集計)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 近年卒業し、医師国家試験に合格した卒業生は、すべて初期研修を行っており、研修終了後は、附属病院をはじめ、県内外の医療機関で医師として活躍している。

(保健学科) 保健学科各専攻の取り組みにより高い国家試験合格率、ならびに高い就職率を維持しており、保健学科卒業生に対する社会からの評価が高いことを示している。

以上のことから期待される水準を上回ると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

改善、向上している。

(医学科) 重要な質の変化あり。教育活動について、熊本大学医学部医学科では従来の教育組織の元、医学教育モデル・コア・カリキュラムの項目を網羅したカリキュラムを構築し、教育活動を実施している。また、基礎研究の基盤を早期から培い、基礎医学研究マインドを持った人材を輩出することを目的とした柴三郎プログラムを構築している。また、本邦において医学教育に求められている成果基盤型医学教育の導入に対応するため、平成26年度に熊本大学医学部医学科の教育成果を策定している。さらに診療参加型臨床実習の充実と拡充を達成するため、新カリキュラムの構築を行い、その中での臨床実習の充実拡充を図っている。

(保健学科) 保健学科は、看護師・保健師・助産師・診療放射線技師・臨床検査技師の資格および高等学校教諭一種免許(看護)が取得可能な履修コースが設置され、多様な医療関連従事者の育成に対応した医学教育実施体制が整備されている。カリキュラムの編成においても、各分野の学問体系を基盤とし、国家資格取得に必要とする科目群で教養課程を編成している。また、各専攻分野において専門的な授業科目を置き、将来の進路に則した科目履修を保証している。カリキュラムでは、各専攻で臨床実習を活用し双方向性教育の導入や問題解決型の教育、体験学習の拡充などを図り、質の高い医療人を養成している。

以上から教育活動の状況についての質の向上度は、改善、向上していると判断する。

(2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

高い質を維持している。

(医学科) 教育成果について、学生の評価は厳格な基準のもと、進級や卒業を判定している。卒業後の国家試験合格率についても、数年前はやや低下傾向を示したが、平成25年度卒業生の国家試験合格率は95.1%と高水準を達成できた本学卒業した国家試験合格者はすべて初期研修を行っている。

(保健学科) 学生の授業評価である「授業改善のためのアンケート」を踏まえた授業改善への取り組みは、教員レベルでは担当科目において授業目標や授業方法、評価方法等を改善し質の向上を図っている。また、毎年5回程度のFDセミナーの実施や、各専攻における厳格で一貫した成績評価の適用により教育の質が改善されている。これら教育成果の状況を反映する指標の一つである平成22年度から平成25年度の国家試験の平均合格状況は、看護師99.3%、保健師96.8%、助産師98.2%、診療放射線技師95.1%、臨床検査技師で94.9%と全国平均に比べても高い数値を維持している。

以上から教育成果の状況についての質の向上度は高い質を維持していると判断する。

Ⅲ 社会貢献の領域に関する自己評価書

1. 社会貢献の目的と特徴

(医学科) 本学の地域社会との連携に係る基本方針(資料 C-1-1-1) に則り、医学科では、社会とくに地域社会から期待される医師・医学者を育成することを目的として教育活動を行っている。また、地域の教育および文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与することを目的として、学生以外の社会人に対して授業開放を実施している。さらに、地域の学校教育へ貢献し、地域社会の若手人材、とくに将来、医療や医学・生命科学分野で活躍する人材を育成することを目的として、高大連携事業の推進、中・高校生に対する学内施設開放、柴三郎プログラムによる中高生の医学・生命科学研究の指導や教育などを行っている。(資料 C-1-1-2)

(資料 C-1-1-1)

- 熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針(抜粋)

熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針

平成25年1月17日
学 長 裁 定

熊本大学は、地域社会からの要請を的確に把握し、研究成果の公開、人的交流、諸施設の開放等を通して、産業創成、地域経済振興、教育及び文化の向上、医療・福祉の増進等に積極的に貢献するとともに、教育面における社会サービスの充実を図り、地域に開かれた大学としての役割を果たす。

大学から地域社会への教育研究成果の還元という一方向だけでなく、地域社会との積極的な連携を通して双方向の活動を推進し、地域再生の核となる大学づくりのため、地域社会との連携に係る基本方針を次のとおり定める。

(以下略)

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-2)

- 柴三郎プログラム「柴三郎 Jr. の発掘」概要

1. 柴三郎 Jr. の発掘

柴三郎 Jr. の発掘

医学部

1 2 3 4 5 6

基礎演習

先取履修生

卒業臨床研修前期

柴三郎プログラム 博士課程

1 2 3 4

キャリアパス

- 海外留学(支援)
- テニュアトラック教員
- 臨床研究医師
- 医薬品医療機器総合機構、厚労省など行政

高校時代から医学研究を体験
研究場所、設備の提供

大学院の単位を取得
e-learning で受講可能
様々な研究支援(学会発表等)

すべての熊本病院
卒業臨床研修プログラムが選択可能
すべての参加病院で研修可能

卒業研修と大学院を同時に
さらに博士3年で修了も可能

熊本県内の高校生に対しまして医学・生命科学研究を直接指導します。例えば、近隣の高校の生物部などに所属している高校生に対しまして、「発生・再生医学研究」、「癌などの病気の原因遺伝子探索研究」や「遺伝子改変マウスの作製や病気のモデル動物作製」などの最先端医学研究を放課後や休日などに大学の研究室で直接指導し、研究を行っていただきます。また遠隔地の高校生につきましては、夏休みなどを利用して研究室に訪問いただきまして、医学研究に触れていただきます。

基礎医学研究に早期に触れさせることにより、研究マインドを芽生えさせ、将来、基礎医学研究者を目指す人材を発掘し育成いたします。

研究に必要な費用はすべて熊本大学が負担します。また研究がまとまりますと、国内外の学会等で発表していただきます。交通費、宿泊費などにつきましては、援助いたします。

(出典：柴三郎プログラムパンフレット)

(保健学科)「熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針(平成25年1月17日学長裁定)」に基づき、医療に対する地域社会からの要請を的確に把握し、看護学、検査技術科学、放射線技術科学分野における研究成果の公開や人的交流を通して、質の高い医療の提供と発展に貢献すること、また、これらに貢献できる医療専門職者・教育者・研究者の育成を目的としている。

保健学科の特色を生かし、以下の取り組みを通して、地域に開かれた大学としての役割を果たす。(資料C-1-1-3)

(資料C-1-1-3)

・保健学科としての役割

1. 「地域社会との組織的な連携の強化」として、高等教育コンソーシアム熊本の活動等への積極的な協力、熊本県内の地方自治体、医療機関、企業との連携を推進することにより地域医療並びに医療技術の高度化と充実・発展に貢献する。
2. 「地域社会の課題解決への貢献」として、地方自治体等の審議会や委員会への参画、地域社会や国内外の研究機関等と連携した看護ケアモデルの開発等を通して、保健医療福祉における課題の解決に向けて貢献する。
3. 「大学の生涯学習機能の強化」として、医療技術者または一般を対象とした公開講座、授業開放、地方自治体や様々な団体と連携した講演会・研修等を提供することにより、最新の専門知識の提供と高度医療専門職者・教育者・研究者の育成に寄与する。
4. 「産学連携・産業振興への貢献」として、地域の医療機関・薬学並びに工学分野の企業との連携による診断・検査・治療に関する共同研究を積極的に推進することによって、医療技術の向上に寄与する。

(出典：熊本大学の地域社会との連携に係る基本方針より一部抜粋)

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 本社会貢献の関係者とその期待は、以下のとおりである。

- ① 社会から期待される医師・医学者を育成することを目的とした教育活動
国民、地域社会の人々、自治体および地域の医療機関が主な関係者である。国民の人々の健康と福祉の増進に貢献すること、地域医療を支えること、離島・僻地医療に従事することなどが期待されている。
- ② 地域の教育および人材育成に寄与することを目的としての授業開放などの教育活動
想定する関係者は、地域社会の人々である。地域社会の人々が、学生と一緒に勉強することで生涯学習意欲の刺激につながったり、生命科学の専門的な教養を深めたりすることが期待されている。
- ③ 地域の学校教育への貢献を目的とした活動
想定する関係者は、地域の中学・高校生とその保護者、ならびに中学・高校教育関係者。中学・高校生の医学・生命科学に対する知的好奇心を刺激し、学習への意欲を高めることが期待されている。また中学・高校生の進路決定に役立てることが期待されている。

(保健学科) 医療技術職者の中でも、特に看護師、保健師、助産師、診療放射線技師、臨床検査技師として高度の専門性を有する実践者、教育者、研究者の育成を目指している。そのため、これらの免許取得者から、各自の実践能力を高めるために必要な知識・技術の提供や技術開発が期待されている。

また、保健医療福祉関係者並びに地域住民からは、質の高い医療の提供に向けた医療技術の開発や地域における保健医療福祉の課題を解決するための看護ケアモデルの開発が期待されている。さらに、これらに貢献できる人材の育成が強く期待されている。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 柴三郎プログラムは、本学独自の教育プログラムであり、中・高校～大学～大学院まで一貫して医学・生命科学研究の実践と指導により、将来我が国の医学・生命科学研究を担う研究者(医師)を養成することを目的とする。本プログラムを通じて、地域の中学・高校生に医学ならびに生命科学研究を放課後や休日に実践させ、研究指導を行っている。文部科学省が取り組んでいるスーパーサイエンスハイスクール(SSH)やサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト(SSP)プログラムと比べて、より深く、長時間研究に取り組むことができる。また、医学部の各研究室に配属し、研究をマンツーマンで指導している。さらに、研究成果を学会や論文発表することも指導し、積極的に成果発表することを推進している。本プログラムの取り組みは、他に類を見ない社会貢献活動である。

(保健学科) 社会との連携事業として外部資金を確保し、自治体、医療機関、医療技術者養成機関、高等学校などと連携した事業の展開並びに公開講座、授業開放などを通して、高度医療専門職者・教育者・研究者の育成に寄与している。

また、地方自治体等の審議会・委員会への参画や国内外の研究機関等と連携した看護ケアモデルの開発を行うことにより、地域社会の課題解決に向けた取り組みに貢献している。さらに、国内外の医療機関・薬学並びに工学分野の研究機関との共同研究を積極的に推進することにより、放射線技術並びに検査技術による診断・検査・治療の発展に貢献している。

【改善を要する点】

(医学科) 地域の人々に対して、授業開放を行っているが、提供している授業数が少ない。また、地域の人々が聴講を希望している授業の調査を行っておらず、本医学科からの一方向性の提供に留まっている。

(保健学科) 各教員が様々な取り組みをしているにも関わらず、保健学科内での周知・公表が十分なされていないために、教員間での情報交換が行われていないことが課題として挙げられる。今後、保健学科内の教員間の連携を強化し、大学内外の関係者により広く周知・公表を図るためのシステム作りを行う必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

<p>観点 社会貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。</p>
--

(観点に係る状況)

(医学科) 社会、特に地域社会から期待される医師・医学者を育成することという目的を達成するために、医学科教育・教務委員会ならびに医学科会議が中心となり、授業計画を立て、その計画を授業計画書(資料 C-1-1-4)として熊本大学 Web サイトなどで、公表・周知している。また、教育理念・目標などをオープンキャンパスに出席した高校生等に対して説明している(K50)。

(保健学科) 保健学科単独で目的等は定めていないが、大学が定めている基本方針の下、国内外の研究機関や産学官連携の強化を積極的に進め、教育研究の成果を社会へ還元するという基本的な考え方を保健学科内で共有している。大学の基本方針は Web サイトで、保健学科の教育研究に関することは、保健学科 Web サイトや生命科学研究部概要において公表・周知している(資料 C-1-1-5)。

- (資料 C-1-1-4)
・ 授業計画 (抜粋)

熊本大学シラバス(授業計画)		1/2 ページ	
熊本大学シラバス (授業計画)			
検索画面へ 1つ戻る			
● 基本情報			
授業科目名	(日) (英)	医療と社会 I Sociomedical Sciences I	
時間割コード	20075	開講年次	4年
学期	通年	曜日・時限	他
講義題目			
担当教員	:		
科目コード	4210200060	科目分類	専門基礎科目II
選択/必修	必修	単位数	1
● 詳細情報			
授業形態	主として講義形式：それぞれの講義担当者が、設定されたテーマについて、自身の実践活動の経験を中心に紹介する。		
授業の目標	<p>一般学習目標GIO(General Instruction Objective) 社会システムにおける地域保健・医療・福祉活動の位置づけを、関連する業務を担当する専門家/担当者の講義を通して理解する。本科目は、環境保健医学分野と公衆衛生・医療科学分野が、以下の趣旨で実施する。</p> <p>○環境保健医学：地域保健の理念と技術とそれがいかに現場に応用施行されているかを、とくに保健活動と環境保全活動の連携という視点から、実践事例を通して理解し、医師としておよび地域住民として、地域保健実践活動および地域づくりに主体的に参加することのできるための手がかりを得る。</p> <p>○公衆衛生・医療科学：社会システムの中で、保健・医療・福祉サービスに携わる医師として、最適な保健・医療・福祉サービスを実施するための現状分析、問題解決の方針決定、具体的実行計画の立案および評価について基本的な考え方を理解する。さらに、保健・医療・福祉サービス組織の中で医師としてリーダーシップを発揮する際に必要な知識を習得する。</p>		
授業の内容	<p>個別学習目標SBO(Specific Behavioed Objective) ○環境保健医学 その地域にわづいた資源を活用した新しいかたちの地域づくりのありかたについて、それぞれの講師が自身の実践活動の経験を紹介する。</p> <ol style="list-style-type: none"> みどりモデルを導入した地域歯科保健システム 農的くらしと循環・共生型社会 参加型地域づくりの展開 水俣病：新しい地域学 <p>○公衆衛生・医療科学 国際社会における公衆衛生活動ならびに地域社会での活動について現場で活動している医師から講義を頂く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 水俣病を考える 大地震災害後の住民の健康を守るために 動脈硬化性疾患の疫学調査 日本の医療政策と地域医療 慢性閉塞性肺疾患(COPD)の疫学調査 		
キーワード	ヘルスプロモーション、参加型住民活動、環境保全、循環・共生社会、水俣病、医療政策、地域医療、動脈硬化性疾患、COPD		
テキスト	とくになし(各担当教官が独自に資料を作成する) 推薦図書：NEW予防医学・公衆衛生 シンプル衛生公衆衛生学		
参考文献	授業時に適宜紹介する。		
評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 評価方法 評価基準 <p>それぞれの時間ごとに設定された課題についてミニレポートを提出させ、それを得点化して評価する。</p>		
履修上の指導			
http://syllabus.jimu.kumamoto-u.ac.jp/kusy_detail.php?nendo=2014&scd=42&jcd=20... 2014/09/29			

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 C-1-1-5)

・熊本大学大学院生命科学研究部憲章（抜粋）

基本目標

1. 研究と教育

(1)～(2) 略

2. 社会貢献

(1) 研究活動によって得られた知的財産を社会に還元し、人類の健康と福祉の発展に寄与します。

(2) 医療・医薬科学領域での国内外における指導的人材の育成を図り、これらの人材を通じ社会の発展に寄与します。

(出典：熊本大学大学院生命科学研究部概要)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 社会とくに地域社会から期待される医師・医学者を育成することを目的としており、6年間の教育を終え、医師あるいは研究者として社会に輩出することで国民やの期待に応えている。

(保健学科) 社会貢献活動の目的達成のため、全学の基本方針の下に保健学科内で共通認識を共有している。保健学科 Web サイト等での周知も必要と考えるが、大学としての基本方針は熊本大学 Web サイトや生命科学研究部概要等で周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点到に係る状況)

(医学科) 授業計画書にて公表・周知している計画に従って教育を実践した。例えば、1年次の開講授業である早期社会体験学習では、地域の心身障害児施設、慢性疾患療養施設、老人保健施設などで実習を行い、患者や住民の側から医療・福祉をみる体験をさせることにより、社会に貢献する医師像を理解させており、これらの取り組みにより、学生個人においても社会貢献活動に参加する者も多く、2012年に本学部の公認サークルとなった国際社会医療研究会においては、社会貢献等に関する講演会の企画・開催、国際交流活動及びボランティア活動などを積極的に行っている (K47)。

(保健学科) 国内外の研究者や産学官連携による共同研究を通して得られた成果をもとに、地域の課題解決に向けた看護ケアモデルやMRIによる新たな画像診断技術の開発、遺伝性疾患の診断に関する研究に取り組んでいる。その成果として、精神科リエゾンチーム等の新たなケアモデル、熊本県在宅ケア研究会、熊本県感染管理ネットワークといった組織作りや研究成果の実用化に貢献した。また、これらの取り組みをもとに、地域社会との組織的な連携の強化が図られるようになり、公的機関の審議員・委員会の委員については、平成21年は16件であったものが平成22年度では2倍に増え、平成25年度は38件であった(資料 C-1-2-1)。このように、保健学科の教員が公共機関等の審議会や委員会に参画し、地域の保健医療福祉における課題の解決に向けた取り組みにも関わる機会が増えてきている。(K47)

(資料 C-1-2-1)

・ 公的機関の審議員・委員会の委員数一覧

※延べ人数

	H21	H22	H23	H24	H25
公的機関の審議員・委員会の委員	16	33	41	31	38
医療機関の審議員・委員会の委員	3	3	3	4	2

(出典：依頼文書綴りより集計)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 社会貢献活動は、授業計画書に具体的に明示した目標と計画に基づいて適切に実施しており、国民や自治体からの期待に応じている。

(保健学科) 保健学科で創設された知的財産をもとに、自治体や関連機関との連携を図ることにより、地域特有の課題の解決に向けた取り組みができた。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して活動の成果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 毎年約 100 名の医学士を輩出し、輩出した医学士が医師や研究者として、国民や地域社会の人々の健康と福祉の増進に貢献している。

(保健学科) 社会との連携を深めるための取り組みとして、研究成果を熊本大学リポジトリや紀要を通して公表するとともに、講演会や研修会、公開講座、研究会等を主催し、地域における知的財産の活用の推進を積極的に図っている。

公開講座数も増え、述べ開催数は平成 21 年度の 6 回から平成 25 年度は 20 回と 1 講座をシリーズで開催するなど、内容の充実が図られている。(資料 C-1-3-1)

また、講演会やセミナー・研修会等の講師については、公的機関からの依頼が年々増え、公的機関主催のセミナーや研修会の講師依頼は、平成 21 年度の 2 倍以上の 234 回に及んでいる(資料 C-1-3-2)。

研究成果による知的財産を社会へ還元するため、外部資金等の獲得を組織的に推進しており、多くの教員が科学研究費や受託研究費等を獲得している。受託研究費については熊本県からの依頼が多く、地域の課題解決に還元できる研究が進められている(資料 C-1-3-3)。(K47)

(資料 C-1-3-1)

・ 公開講座開催数

H21		H22		H23		H24		H25	
講座数	延べ開催回数								
3	6	6	10	3	6	5	20	5	20

(出典：大学データ集)

(資料 C-1-3-2)

・講演構成、セミナー・研修会講師

		H21	H22	H23	H24	H25
講演会の講師	公的機関	10	11	15	15	19
	医療機関	0	0	0	1	1
	その他	0	0	0	13	4
セミナー・研修会等の講師	公的機関	115	129	129	227	234
	医療機関	31	35	41	23	16
	その他	71	13	36	17	40

(出典：依頼文書綴りより集計)

(資料 C-1-3-3)

・科学研究費補助金・受託研究費の獲得状況

	H22		H23		H24		H25	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
科学研究費補助金	25	25,800,000	20	27,000,000	23	23,805,662	22	21,650,000
受託研究費	4	6,360,000	1	1,000,000	1	2,900,000	3	6,102,100

(出典：大学データ集)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 我々の社会貢献活動成果について、国民や自治体は高い満足度を示しており、期待に込んでいる。

(保健学科) 公開講座や講演会への参加状況、保健学科の教員が地方自治体等の審議会や委員会に参画する機会が増えている。また、国内外の研究機関との共同研究や科研費、受託研究費などの獲得数・獲得額が増えてきている。

以上のことから、期待される水準にあると判断する。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 現在のところ、社会貢献活動については改善の必要性は無く、引き続き継続して社会貢献に取り組む。

(保健学科) 国内における社会貢献は推進されていると判断できるが、さらにグローバル化に向けた取り組みの強化が求められる。交流協定締結のための取り組み、留学生の受入れを推進するための取り組みなどを行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 社会貢献活動は、熊本大学の地域社会との連携にかかる基本方針に沿って実施し、想定された成果を得ており、想定する関係者からの期待に応えているものであり、改善の必要性はない。

(保健学科) 保健学科の社会貢献として、国外の研究機関との連携強化を図るため、交流協定の締結や積極的に留学生を受入れるための環境整備に取り組んでいる。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 大学の地域貢献活動の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 地域貢献活動の目標は、地域の教育および文化の向上・発展や多様な分野における人材育成などに寄与すること、ならびに地域の学校教育へ貢献し、地域社会の若手人材、とくに将来、医療、医学・生命科学分野で活躍する人材を育成することである。本目標を達成するために、高大連携事業、中・高校生に対する学内施設開放、柴三郎プログラムによる中高生の医学・生命科学研究の指導や教育を計画した。

これら目的と計画に関しては、関係 Web サイト上で公表・周知した。(資料 C-2-1-1) また、適宜パンフレットやチラシを作成し、地域住民や中・高校生に配布し、公表・周知に努めた。さらに、地域の中学校、高等学校に出向き、柴三郎プログラムや授業開放などの医学科が行っている地域貢献活動について説明し、参加を促している

また、平成 22 年度から導入した推薦入試(地域枠)で入学した学生は、現在 1~6 年に在学し地域医療を含めた教育を受けており、卒業後の地域での活動が期待される(K48)。

(資料 C-2-1-1)

・ 関係 Web サイト

- ・ 政策創造研究教育センター Web サイト
<http://www.cps.kumamoto-u.ac.jp/syogaigakushu/top/>
- ・ 高大連携推進室 Web サイト
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/nyuushi/koudairenkei>
- ・ 医学部 Web サイト
<http://www.medphas.kumamoto-u.ac.jp/medical/>
- ・ 柴三郎プログラム Web サイト
<http://www.shibasaburo-kumamoto.jp>
- ・ 柴三郎プログラム Facebook
<https://www.facebook.com/pages/熊本大学大学院医学教育部柴三郎プログラム/103742793121619>

(保健学科) 保健学科単独で目的等は定めていないが、大学が定めている基本方針を保健学科内で共有している。公開講座、出前授業等は熊本大学 Web サイトで公表・周知されている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 地域貢献活動について、柴三郎プログラムを中心に実施しており、積極的にPRを行い参加者を勧誘しており、地域の住民の期待に応えている。

(保健学科) 地域貢献活動の目的達成のため、全学の基本方針を保健学科内で共有している。保健学科 Web サイト等での積極的な周知も必要と考えるが、目的や公開講座等の計画は全学をまとめて熊本大学 Web サイト等で周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 関係 Web サイト、パンフレットならびにチラシ等で公表・周知している計画に従って地域貢献活動を行った。具体的には、下記の内容の活動を実施した (K48)。

① 高大連携事業における高校生のためのワクワク連続講義の実施 (資料 C-2-2-1)

(資料 C-2-2-1)

・ 高大連携事業における高校生のためのワクワク連続講義実施一覧

【高大連携事業における高校生のためのワクワク連続講義実施状況】

平成 24 年度

- ・ 講義担当教員：竹屋 元裕 (教授)
内容：医学研究はこんなに面白い！
日時：平成 24 年 6 月 23 日 (土)
- ・ 講義担当教員：尾池 雄一 (教授)
内容：生活習慣病とがん研究の最前線
日時：平成 24 年 10 月 20 日 (土)

平成 25 年度

- ・ 講義担当教員：富澤 一仁 (教授)
内容：医学部ではどんな研究をしているの？ ～糖尿病とその研究～
日時：平成 25 年 11 月 16 日 (土)
参加者：64 名
- ・ 講義担当者：西谷 陽子 (教授)
内容：飲酒は命を奪うのか
日時：平成 25 年 8 月 8 日 (木)

(出典: 高校生のためのワクワク連続講義実施状況)

② 授業開放科目の実施 (資料 C-2-2-2)

(資料 C-2-2-2)

・ 授業開放科目一覧

【授業開放科目状況一覧】

平成 21 年度

- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：後期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：2 名

平成 22 年度

- ・ 授業科目名：免疫学
担当教員：西村 泰治（教授）、坂口 薫雄（教授）
学期：後期（毎火・木曜日 2 時限）
受講者数：2 名

- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：後期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：1 名

平成 23 年度

- ・ 授業科目名：免疫学
担当教員：西村 泰治（教授）
学期：後期（毎火・木曜日 2 時限）
受講者数：2 名
- ・ 授業科目名：人体発生・肉体解剖学
担当教員：福田 孝一（教授）
学期：後期（毎月・火曜日）
受講者数：3 名
- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：後期（毎水曜日 1 時限）

平成 24 年度

- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：前期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：2 名
- ・ 授業科目名：感染防御学
担当教員：原田 信志（教授）
学期：後期（毎火・金曜日）
受講者数：2 名
- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：後期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：2 名
- ・ 授業科目名：免疫学
担当教員：西村 泰治（教授）
学期：後期（毎火・木曜日 2 時限）

平成 25 年度

- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：前期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：5 名
- ・ 授業科目名：免疫学
担当教員：西村 泰治（教授）
学期：後期（毎火・木曜日 2 時限）
受講者数：1 名
- ・ 授業科目名：消化器外科学
担当教員：馬場 秀夫（教授）
学期：後期（毎水曜日 1 時限）
受講者数：3 名
- ・ 授業科目名：婦人科学
担当教員：片渕 秀隆（教授）
学期：後期（毎木曜日 4 時限）

③ 学内施設開放

毎年、8月に開催するオープンキャンパス時に、熊本大学医学部内の施設（総合研究施設、学生実習室等）を開放し、研究機器や設備などについて説明している。毎年、高校生、その保護者ならびに地域住民など約100名が参加している。また、同時に中学生ならびに高校生を対象に、柴三郎プログラムの拠点となる研究室を開放し、最先端研究機器の説明、癌細胞やiPS細胞の観察、マウスの観察などを体験させており、平成24年度は21名、平成25年度は32名の参加があった。

④ 柴三郎プログラムにおける取り組み

平成24年度より柴三郎プログラムで、地域の中学生並びに高校生を対象に研究を指導し、実践させている。(資料C-2-2-3)

(資料C-2-2-3)

・柴三郎プログラム中高生受入状況

年 度	平成 24 年度	平成 25 年度
受入数	高校生 11 名	中学生 3 名、高校生 10 名
研究実践の例	<ul style="list-style-type: none"> ・アジア型2型糖尿病の分子機構に関する研究（分子生理学分野） ・聴覚機構に関する研究（知覚生理学分野） ・がん、生活習慣病治療法開発の最先端研究（分子遺伝学分野） ・膵臓の発生と再生～ES細胞から膵臓β細胞を作る～（多機能幹細胞分野）など 	

(出典：柴三郎プログラム関係資料より抜粋)

(保健学科) 公開講座や講習会等は毎年継続的に実施されており、その内容は地域の問題解決につながるテーマや最新の専門知識の提供と実践能力の育成につながる内容が取り上げられている(前掲資料C-1-3-1、前掲資料C-1-3-2)。

その他にも在宅ケアや感染管理の充実に向け、保健医療福祉機関と連携した継続的な取り組みを実施しており、平成24・25年度は熊本県健康福祉部に協力して、熊本大学において看護教員養成講習会を開催し、九州内の看護教育の推進に貢献した(資料C-2-2-4、資料C-2-2-5)。

また、高大連携の観点から、看護学・診療放射線技術科学・臨床検査技術科学を理解して貰うための出前授業(資料C-2-2-6)、平成22年度からは高等学校と連携したスーパーサイエンスハイスクール事業への積極的な協力、女子中高校生の理系進路選択支援プロジェクトの企画・運営を行った。(K50)

(資料C-2-2-4)

・平成25年度 熊本県看護教員養成講習会実施要領(抜粋)

平成25年度 熊本県看護教員養成講習会実施要領	
1	目 的 熊本県看護教員養成講習会(以下「講習会」という。)は、看護師等養成所の専任教員として看護教育に携わる者に対して必要な知識・技術を修得させ、看護教育の資質の向上を図ることを目的とする。
2	主 催 熊本県
3	実施機関及び開催場所

(1) 実施機関	〒862-8570 熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 熊本県健康福祉部健康局 医療政策課 TEL 096-333-2206 FAX 096-385-1754
(2) 開催場所	〒862-0976 熊本市中央区九品寺4丁目24番1号 熊本大学 本荘南地区 楷樹会館 (熊本大学医学部保健学科) ・実習については、県内看護師等養成所において実施する。
4 開催期間	平成25年4月17日(水)～平成25年12月20日(金)
(以下 略)	

(出典：平成25年度 熊本県看護教員養成講習会実施要領)

(資料 C-2-2-5)

・平成25年度講習会 所属別担当時間数一覧

	担当時間数／総時間数
1. 生命科学研究部 (保健学系)	333/900
2. 熊本大学教職員 (1. 以外)	66/900
3. 他大学・専門学校等教員	390/900
4. その他	111/900

(出典：平成25年度熊本県看護教員養成講習会講師一覧より集計)

(資料 C-2-2-6)

・出前授業実施回数一覧

H21	H22	H23	H24	H25
11 (4)	16 (4)	9 (1)	8 (0)	7 (0)

※ () は、県外で内数

(出典：大学データ集)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 地域貢献活動は、具体的に明示した目標と計画に基づいた活動を適切に実施した。さらに平成24年度から柴三郎プログラムを発足し、中学生ならびに高校生を対象に最先端医学研究を指導している。この活動は、新聞などで取り上げられ、地域だけでなく九州地区の住民や地域の中学校・高等学校に反響をよんでおり、鹿児島県や宮崎県から高校生が参加している。

(保健学科) 公開講座や講習会等は単年度終了ではなく、継続的に取り組むことができている。そのため、地域との連携がより深まり、単なる知識・技術の提供に留まらず、地域の問題解決につながる内容が提供できている。

以上のことから期待される水準を上回ると判断する。

観点 活動の実績及び活動への参加者等の満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。
--

(観点に係る状況)

(医学科) 高大連携事業における高校生のためのワクワク連続講義では、講義終了後の聴講生に対するアンケート調査で、ほぼ全員から満足であったとの回答を得た。授業開放においても参加者からは、概ね満足であるとの回答を得ている。また、柴三郎プログラムにおける地域貢献活動では、参加者全員から満足しているとの回答を得ており、その結果、

参加希望の中・高校生が毎年増加している。

(保健学科) 女子中高校生の理系進路選択支援プロジェクトについては、参加者の 98% が良かったと評価していた (C-2-3-1)。

公開講座では継続して同じテーマの公開講座を受講する人やひとつの公開講座を受講したことをきっかけに他の公開講座も受講する人がいたことから、満足度が高かったことが推測できる。また、保健学科の教員が主催する公開講座や講演会・研修会に参加したことをきっかけに、大学院保健学教育部に進学した人もいる。

さらに、地方自治体、熊本県内の保健医療福祉機関や企業と連携した講演会等の開催が徐々に増えてきている (前掲資料 C-1-3-2)。(K50)

(資料 C-2-3-1)

・女子中高校生の理系進路選択支援プロジェクトアンケート結果 (抜粋)

(高校生)

- ・漠然としか分かっていなかった理系女子の職業について、実際に働いている方のお話を聞くことができ、本当に良かった。技術職以外の様々な職があることがわかった。
- ・テレビ記者や JR 九州など意外な理系女子の出口を教えてもらった気がする。自分が本当に好きでやりたいことを見つけていこうと思う。
- ・不安は多いけど、まずは行動すること積極的な態度をとっていくことを大切にしたい。この取り組みは私の考えをポジティブにできた・・・いい機会になった。
- ・好きなことをして私も突き進みたい！とやる気がわいてきた。

(中学生)

- ・「自分のやりたいことをする」と言われて、夢をあきらめず努力を続けていくことは大切だと思った。

(保護者)

- ・理系女子が、実際どのような職種へ進まれるのかを聞くことができ大変参考になった。

(出典：女子中高校生の理系進路選択支援プロジェクト成果報告書 (2013))

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

(医学科) 我々の地域貢献活動成果について、地域住民や地域の中学校・高等学校からこれまでにない取り組みであると高い評価を受けている。

(保健学科) 公開講座や講演会への参加状況、受講者の保健学教育部への進学、看護教員の育成といった成果から地域への貢献のみならず、保健学科の設置目的である高度医療専門職者・教育者・研究者の育成についても効果が上がっている。

以上から期待される水準を上回ると判断する。

観点 改善のための取組が行われているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 授業開放で提供している授業数が少ない点について、教務教育委員会にて改善策を検討した。定例医学科会議メンバーならびに各授業担当教員に文書とメールで周知を徹底するように取り組んでいる。

(保健学科) 地域のニーズに対応するために大学内、特に附属病院との連携を更に強化する必要があることから、現在、人材交流等のシステム作りを検討し始めたところである。また、保健学科の地域貢献に関する取組を学内外へ周知・広報するために、現在、保健学科の Web サイトの活用を推進し、より充実させるための検討を行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 改善のための取り組みが功を奏し、医学科から提供する授業数が年々増加し、それに伴い受講者数も増えている。(前掲:資料 C-2-2-2)

(保健学科) 保健学科の地域貢献についての取組、活動、成果は良好であるが、大学の Web サイトだけでなく、保健学科の Web サイトを活用した周知についても検討する必要がある。現在、これらの課題に向けた取り組みが行われている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

- (1) 分析項目Ⅰ 大学の目的に照らして、社会貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

改善、向上している。

(医学科)

分析：第Ⅰ期中期目標期間終了時点（平成21年度）の卒業生数は、103名であった。平成22年度～25年度の卒業生数の平均は、98.8名であり同程度であった。卒業生の多くは、国民や地域社会の人々の健康と福祉の増進に貢献しており、その活動は高く評価されている。

(保健学科) 国内外の研究者や産学官連携による共同研究により、新たな看護ケアモデルや医療技術の開発に取り組んでいる。これらの研究活動やその成果をもとに、社会との組織的な連携の強化が図られるようになり、保健学科の教員が地方自治体等の審議会や委員会に参画し、地域の保健医療福祉における課題の解決に向けた取り組みの策定にも関わる機会が2倍以上に増加している。

以上の成果は、保健学科の設置に伴い、高等教育を求める学生のニーズに答えうる教育を提供できるようになったこと、国内外の研究施設等との連携による研究の推進が図られるようになったことが影響している。

- (2) 分析項目Ⅱ 大学の目的に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、成果を上げていること。

大きく改善、向上している。

(医学科)

分析：第Ⅰ期中期目標期間終了時点では、高大連携事業における高校生のためのワクワク連続講義、授業開放、柴三郎プログラムなどの活動は実施していなかった。第Ⅰ期中期目標期間時点の反省から、第Ⅱ期中期目標として、積極的に地域貢献活動に取り組むことを挙げ、これまで取り組んできた。この取り組みは、地域住民から認知され、高い満足度を得ている。

(保健学科) 保健学科主催の講演会や公開講座の数は年々増加傾向にあり、その成果として地域の保健医療福祉機関や医療従事者との連携も深まってきている。さらに、熊本県内の自治体、保健医療福祉機関、企業等との連携による共同研究や講演会・研修会の共同開催も増えてきている。

IV 国際化の領域に関する自己評価書

1. 国際化の目的と特徴

(医学科) 医学科では、アドミッション・ポリシーとして6項目で人材を求めているが、そのうち2項目で国際化の重要性が謳われている。すなわち、研究面では「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人」、医療面では「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人」である。

(保健学科) 保健学科では、近年のグローバル化に伴い、「幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。」(教育目標から抜粋) ことを目標として掲げ、先端的な医療技術の修得はもちろん、後進国の医療技術者の支援・指導など国際的に貢献できる人材の育成を目的としている。また、研究面においても国内に限らず海外との共同研究等を通して、看護学並びに放射線医療技術科学及び検査技術科学の発展の資することを目的としている。

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 学士(医学)の学位授与に当たっても、学習成果として「グローバルな視野をもち、国際的に活躍する研究者をめざすことができる」ことを達成すべく編成された教育課程を学修することを条件としている。医学科で想定する人材は、在学生、外国人留学生、医療研究者・教育者が想定される。これらの関係者への高度な医学教育や研究を通して社会への還元が期待される。

(保健学科) 保健学科では、在学生、外国人留学生、医療専門職業人、医療研究者・教育者が想定している。これらの関係者に対し、国際的に活躍できる医療技術教育の実施、また、国際的に通用性のある研究成果の社会還元が期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科のアドミッション・ポリシーには、「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医学研究を展開する意欲に溢れる人」、「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人」を求めており、様々な媒体により受験生に有効に周知している。また、入学試験においては、これまで推薦入試のみ行ってきた面接試験を、平成 25 年度実施の前期入試にも導入したことで、受験生も学力のみならず、医学部のアドミッション・ポリシーについての知識も深く理解するようになったと考える。

これにより、国際的視野で医学を学ぼうとする学生も多く、休業期間を利用しての語学研修や学会発表への参加による海外渡航も年々増えている傾向にある。また、海外の大学等とも学生交流・学術交流の協定締結も着実に増加している。

(保健学科) 保健学科は、まだ歴史が浅く海外の大学と部局間交流協定を締結しているのは 3 つの大学である(資料 D-1-1-1)。学生交流・学術交流を結んでいる韓国の高麗大学校保健科学大学からは毎年学生を受入れ、保健学科からは、短期ではあるが教員・学生が訪韓し、良好な交流を継続している。

(資料 D-1-1-1)

・部局間交流協定校

締結年	国	大学名	備考
平成 22 年	韓国	高麗大学校保健科学大学	学術交流 学生交流
平成 23 年	アメリカ	カリフォルニア大学 サンフランシスコ校看護大学院	学術交流
平成 24 年	アメリカ	サンフランシスコ大学看護大学院	学術交流

(出典：生命科学研究部概要)

【改善を要する点】

(医学科) 平成 28 年度からは後期入試を廃止し、全ての受験生に対して面接を導入するため、全受験生に対してアドミッション・ポリシーの内容を確認することが可能になる。面接の場で、全受験生に対して、医学科のアドミッション・ポリシーの 1 つとして「グローバルな視野をもち、国際的に活躍する研究者をめざすことができる」人材を求めていることを理解しているか確認することが必要である。

(保健学科) 部局間交流協定等を通して、海外と交流を希望する学生はいるが、保健学科学生は、国家試験に合格するという第一目標があるため、留学等により系統的に組まれた学習に支障をきたす可能性がある。これらの改善策を模索していく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 国際化の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点到る状況)

(医学科) 医学科では、「科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる学生」、「社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ学生」、「グローバルな視野をもち、国際的に活躍する研究者をめざすことができる学生」を育成するために教育目標及び学位授与方針に定め、専攻毎に学生便覧などに掲載している。また、このアドミッション・ポリシーは、熊本大学案内「がんばれ受験生」、入学者選抜要項、学生募集要項などの冊子(資料 D-1-1-2、D-1-1-3、D-1-1-4)で周知するとともに、医学部 Web サイトにも公開している。

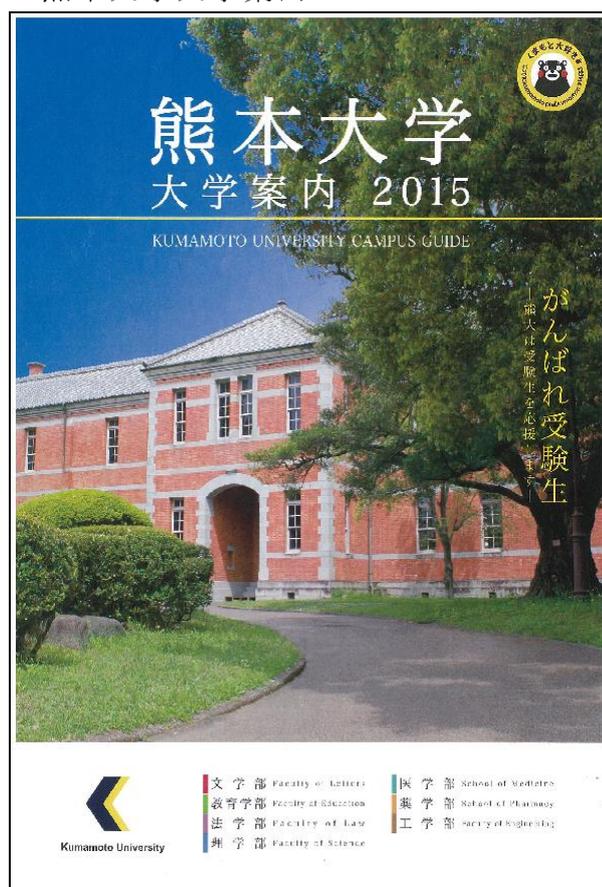
また、オープンキャンパス時には、各種資料を配布するとともに口頭でもアドミッション・ポリシーを紹介している。

(資料 D-1-1-2)

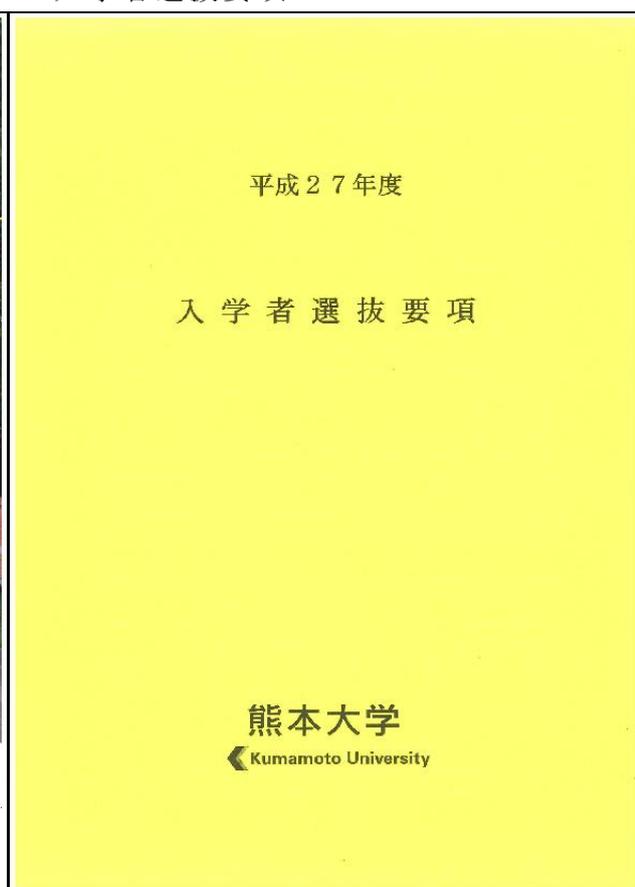
・熊本大学大学案内 2015

(資料 D-1-1-3)

・入学者選抜要項



(出典：熊本大学大学案内冊子)



(出典：入学者選抜要項冊子)

(資料 D-1-1-4)

・学生募集要項



(出典：熊本大学学生募集要項（一般入試、特別入試）)

(保健学科) 保健学科では、グローバルな視野を持ち、国際的保健医療活動に貢献できる学生を育成するために教育目標及び学位授与方針を定め、専攻毎に保健学科学生便覧に掲載している(資料 D-1-1-5)(資料 D-1-1-6)。また、保健学科共通科目の「国際医療・保健活動論」を必修とし、保健学科の Web サイトに掲載している。

また、部局間交流協定校は着実に増え、現在 3 大学と部局間交流協定を締結しており、熊本大学 Web サイトや生命科学部概要等において周知している。

(資料 D-1-1-5)

・教育目標 (抜粋)

- 【1】保健学科教育目標
 - 1) ~ 4) 略
 - 5) 幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。
 - 6) 略
- 【2】各専攻の教育目標
 - (2) 放射線科学技術専攻の教育目標
 - 1) ~ 5) 略
 - 6) 放射線技術科学の知識を活かした保健医療活動を通して異文化コミュニケーションに積極的に参加し、国際貢献に寄与できる医療人を育成する。
 - (3) 検査技術科学専攻の教育目標

1) ~ 5) 略

6) 国際的な活動（国際感染症の予防、発展途上国の健康管理）に参画できる人材を育成する。

（出典：保健学科学生便覧）

（資料 D-1-1-6）

・学位授与方針（抜粋）

（看護学専攻）

【グローバルな視野】

- ・国際的に必要とされる英語を用いて看護学に関する現象を話すことができる。
- ・外国語運用能力を用い国際的な視野で看護学を構築するためのコミュニケーションが実施できる。

（放射線技術科学専攻）

【グローバルな視野】

- ・医療技術に関する英語の文献を読解することができる。

（検査技術科学専攻）

【グローバルな視野】

- ・自然・生命・医学・医療に関する基本的な理解と広い視野を持っている。
- ・英語の文献を読解するとともに、英語による簡単なプレゼンテーションを行うことができる。

（出典：保健学科学生便覧）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

（医学科）医学科では、明確な方針に基づき、国際化に対する学生指導が行われている。また、学生便覧やWebサイトなどを通して関係者へ確実に周知している。

（保健学科）保健学科では、明確な方針に基づき、国際化に対する学生指導が行われている。また、学生便覧やWebサイトを通して関係者へ確実に周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

（観点到に係る状況）

（医学科）医学科では、カリキュラムの関係で個人による中長期の留学は難しいため、実習や夏季休業中において、海外の学会への参加や発表する機会の提供について各分野等へ働きかけている。（資料 D-1-2-1）

平成 25 年度は、基礎演習及び特別臨床実習の一貫として 6 人の学生が国際奨学事業などを利用して国際学会へ参加し発表などを行っている。また、8 名の学生が夏期休暇などを利用して海外病院の見学や実習参加及び語学研修を行っている。更に、毎年 1 名程度の学生が交流協定校であるリーズ大学（英国）などへ 1 年間の留学を果たしている。

なお、外国人留学生については、医師養成という教育内容の特性上、受け入れが難しく、大学間及び部局間交流協定に基づく受け入れは実現していない。

また、研究面においても、国際共同研究を通して最先端の研究を行っている（資料 D-1-2-2）。

(資料 D-1-2-1)

・海外渡航状況 (医学科)

平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加	語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加	語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加	語学研修・ 見学・実習	学会発表 ・参加
5	3	10	2	6	2	8	6

(出典：学生の海外渡航届け綴りより集計)

(資料 D-1-2-2)

・国際共同研究数一覧 (医学系)

年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
件数	2	7	57	49	39

(出典：熊本大学データ集)

(保健学科) 保健学科では、国際化関連の授業を確実に実施するとともに、学生が海外の大学等で実施される語学研修へ参加することを推奨している(資料 D-1-2-3)。外国人留学生の受入れについては、部局間交流協定校の韓国の高麗大学保健科学大学から、平成 23 年度以降、毎年交換留学生を受入れ、保健学科からは短期であるが教員・学生が訪問している(前掲資料 A-1-2-5)。また、平成 23・24・25 年度には本学留学生と保健学科及び保健学教育部の学生の交流会を開催した。この交流会の会話はすべて英語とし、異文化やコミュニケーションに触れる場となった。

平成 23 年には、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)の臨床教授を講師に招き、国際化推進・FD セミナーを開催し、FD を通じた交流を行い、平成 24 年には、米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校(UCSF)・シカゴ大学の教授及び文科省から講師を招き、看護学・保健学における大学院教育と人材育成について国際シンポジウムを開催した。また、研究面においては、国際共同研究を通して最先端の研究を行っている(資料 D-1-2-4)。(K51、K54)

(資料 D-1-2-3)

・海外での学会参加・語学研修者数一覧

	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度	
	学会発 表・参加	語学 研修								
学部	1	1	3	3	0	6	0	2	0	5

(出典：学生の海外渡航届け綴りより集計)

(資料 D-1-2-4)

・国際共同研究数一覧

平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
3	3	0	3	5

(出典：熊本大学データ集)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医科では、教育の関し正課・正課外活動を通して、また、教員も基礎演習や特別臨床実習を通して、着実に国際化・国際交流を図っている。

(保健学科) 保健学科では、教育の関し正課・正課外活動を通して、また、教員も国際セミナーや外国との共同研究等を通して、着実に国際交流を図っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の実績及び学生・研究者の満足度から判断して活動の成果があがっているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 教育において、国際化に向けての教育は确实の実施しており、語学研修や病院見学・実習等での海外へ渡航する学生が増え、国際化に対する意識は向上してきている。また、海外の大学との部局間交流協定も着実に増加し、共同研究も着実に実施され、成果が上がってきている。(資料 D-1-3-1)

(資料 D-1-3-1)

・部局間交流協定校一覧

締結年	国名	大学名	備考
H21年度	ラオス	ラオス保健科学大学	学術
H22年度	中華人民共和国	北京大学	学術
H22年度	中華人民共和国	廈門大学バイオメディカル研究院・医学院	学術
H22年度	中華人民共和国	浙江大学	学術
H25年度	インドネシア共和国	アイルランガ大学	学術、学生

(出典：熊本大学 Web サイト)

(保健学科) 教育において、国際化に向けての教育は确实の実施しており、語学研修やボランティア・観光等での海外へ渡航する学生が増え、国際化に対する意識は向上してきている。また、国際共同研究も着実に実施され、商品化される研究もあり、成果が上がってきている(前掲資料 D-1-2-2、前掲資料 D-1-2-3)。(K51, K54)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 学生の語学研修や病院見学や病院実習等での海外への渡航が着実に増え、国際化への意識が向上していること、国際共同研究も継続的に実施されており、国際化の成果は上がっている。

(保健学科) 学生の語学研修やボランティア等での海外への渡航が着実に増え、国際化への意識が向上していること、国際共同研究も継続的に実施されており、国際化の成果は上がっている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 学生が卒業後に海外(特に米国)の病院で診療を行う際に必要となる資格について、米国 ECFMG が 2023 年以降、医学教育の国際認証を受けている大学の卒業生以外には

受験資格を認めないとの宣言を受けて、日本国内の大学がその対応を始めた中、医学科においても、平成 25 年度にカリキュラム企画評価委員会を立ち上げ、教育・教務委員会とも連携し、(特別)臨床実習の時間数を大幅に増加させるなど、カリキュラムの改編を行っている。

また、平成 25 年度の医学部 FD ワークショップにおいては、国際認証受審を見据えたテーマ(資料 D-1-4-1)で行っており、次年度以降も継続して取り組むこととしている。

(資料 D-1-4-1)

・第 13 回熊本大学医学部 FD ワークショップ概要

熊大医学部 F D W S

第 13 回 (平成 25 年度) 熊本大学医学部 F D ワークショップ 概要

1. 概略

1) テーマ: カリキュラム構築の基本であり、新たな医学部認証制度でも重要とされている「成果基盤型医学教育 (Outcome Based Education, OBE)」を理解し、熊本大学医学部医学科のコンピテンス・コンピテンシーを作成する。

2) 内容のコンセプト

成果基盤型医学教育 (Outcome Based Education, OBE) とは、「医学科卒業生が身に付けておくべき能力 (コンピテンス) を明確にし、カリキュラムをその能力獲得のために構築すること」である。OBE の考え方は欧米で広く実践されており、日本でもその導入の必要性が指摘されている。加えて、今年度より導入が始まっている「医学教育認証制度」における認証基準でも、OBE の実践があげられている。本来、「熊本大学医学部はどのような医師を育てたいと考えるか」ということを明確にすることは大変重要であるはずだが、現在本学には「熊本大学医学部の教育目標」しかなく、育てたい医師像がより具体的に提示されているとは言い難い。今回の FD ワークショップでは、この OBE を理解し、熊本大学医学部医学科のコンピテンス・コンピテンシーを作成すること (すなわち熊本大学医学部医学科学生が卒業時に獲得しておくべき項目の明文化、熊大が育てたいと願う医師像の明確化) を目標とする。教員の背景要因 (基礎系/臨床系、MD/PhD など) に関わらず、それぞれの立場から、参加、貢献ができるようにする。

3) 対象、グループ構成

全 4 グループで、教員 30 名、学生+研修医 10 名の参加者とする。一グループあたりの構成は、教員 6-7 名 (臨床系 3-4 名、基礎系 3-4 名程度)、学生 2-3 名程度とし、主催者側で参加者の専門分野等を考慮し振り分ける。

4) 企画、タスクフォース

学内: 医学科長、教育・教務委員長、臨床医学教育研究センター教員
学外: (特別講師)

5) 日程、場所

平成 25 年 9 月 8 日 (日)、生命科学部研究部附属 臨床医学教育研究センターで開催する。昼食も臨床医学教育研究センターで、主催者側 (教務担当) で弁当を用意する。午前、午後に休憩 (コーヒープレイク) あり。終了後の全体懇親会は行わない。

6) 目標

G I O:

1) 成果基盤型医学教育 (Outcome Based Education, OBE) を理解し、熊本大学医学部医学科のコンピテンス・コンピテンシーを作成する。

2) その作業を通じて参加者に医学教育に対する理解をより深めて頂く。

1

熊大医学部FDWS

SBO:

- 1) 教育の現状を認識し、問題点を明らかにすることができる。
- 2) それぞれの問題点に対して、解決策の提示と提言を行うことができる。

2. 具体的な内容について

1) セッション

セッション1:「熊本大学のカリキュラムの良い点と問題点」

熊大の現状のカリキュラムの良い点と問題点を抽出し、改善すべき方向性を探る。新しいカリキュラム改善の方策と進捗状況も確認する。

セッション2:「熊本大学医学部医学科の使命とコア教育成果を考える」

OBEを理解し、熊本大学の使命とコア教育成果案を作成する。冒頭に熊大医学部医学科の教育目標と、カリキュラム企画評価委員会のアウトカム案を提示する。各グループ討議では、それらをもとに検討してもよいし、新たに独自の案を提示してもよいと思われる。最後のまとめでは、各グループ（+カリキュラム企画評価委員会案）からのコンピテンスを統合し、熊大としての使命と教育成果案ができれば理想的である。

セッション3:「熊本大学医学部医学科の教育成果を作り上げる」

セッション2でできたコア教育成果案を各グループに振り分け、それぞれの各コア教育成果案についてのより具体的な教育成果案を作成する。

各参加者のプログラムファイルに準備するもの

WS 概要、参加者名簿、日程表、カリキュラム企画評価委員会案、医学教育分野別評価基準日本版、田邊先生講義資料

各チュートリアル室に準備するもの

グループに配布(各2部ずつ):平成25年度学生便覧、平成25年度授業計画書、コアカリ、Tomorrow's doctor, AAMC、千葉大学シラバス
 パソコン(TVに接続):以下のファイルをあらかじめデスクトップに
 パワーポイントファイル(全体発表用)
 ワードファイル(コンピテンス作成用、コンピテンシー作成用など)
 ホワイトボード用マジック、磁石
 K-J法用のカード、マジック、模造紙、セロハンテープなど

2) 全体レクチャー

レクチャー「成果基盤型医学教育(OBE)とは」(田邊先生)

(保健学科) 保健学科では、保健学系運営委員会、教務委員会、国際化推進委員会において、海外大学との交流協定や国際化に関する授業プログラム等について検証、検討を行っている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 医科では、医学教育の国際認証への対応に向けて、カリキュラム企画評価委員会及び教育・教務委員会等で検討するとともに、医学部 FD ワークショップにおいても、これをテーマとして取り組んでおり、それぞれの委員会等が機能し、検証・検討している。

(保健学科) 保健学科では、国際化に向けて保健学系運営委員会や国際化推進委員会等の委員会で検討するシステムが構築されており、必要に応じ該当委員会が機能し、検証・検討している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

分析項目 I 目的に照らして、国際化に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

改善、向上している。

(医学科) 国際交流に関する教職員、学生の意識は、正課・正課外や研究において確実に向上してきている。部局間交流協定校も着実に増えている。学生の海外渡航については、語学研修や病院見学・病院実習等のため渡航する学生が増えており、学生の国際化に向けての意識が向上している。学生の卒業後の海外での医療活動を円滑にするための準備も整いつつある。また、研究面においても国際共同研究が継続に実施され、その研究成果も現れてきている。

(保健学科) 国際交流に関する教職員、学生の意識は、正課・正課外や研究において確実に向上してきている。部局間交流協定校は、小さい部局であるが毎年1校のペースで増えている。学生の海外渡航については、語学研修やボランティア活動等のため渡航する学生が増えており、学生の国際化に向けての意識が向上している。また、研究面においても国際共同研究が継続に実施され、その研究成果も現れてきている。

V 男女共同参画に関する自己評価書

1. 男女共同参画の目的と特徴

(医学科) 熊本大学の掲げる「男女が互いにその人権を尊重し責任も分かち合い、性別にかかわらずその個性と能力を十分に発揮することが出来る男女参画社会」を実現するために、研究活動と出産・育児および介護等といったライフイベントを両立することが出来る研究者の育成・支援が、特に女性研究者において課題となっている。この社会状況において、平成 22 年に「生命科学研究部男女共同参画推進委員会」を設置し、医学系、薬学系及び保健学系における男女共同参画の推進を図り、具体的取り組みを行っている。

男女共同参画社会の形成促進を積極的に行い、国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画における(1)教育・研究及びそれを取り巻く就労・就学環境の整備、(2)男女が共に参画して社会を形成していくための原動力となり、社会でも活躍できる人材の育成、(3)男女共同参画社会の形成のための教育・研究の充実を目標としている。この目標を基に、本研究部における男女共同参画の推進を図っており、男女共同参画の意識定着、男女機会均等を目的とし、重要課題として取り組んでいる。

(保健学科) 女性は、ライフステージの変化とともに、出産・育児および介護などの種々の課題が多く求められる社会状況であり、研究活動との両立が困難になりがちである。また、学生にとってのよいロールモデルを提示しにくい状況となっている。

保健学科は、熊本大学の「地域連携によるキャリアパス環境整備」事業(平成 18 年)や「国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画」(平成 19 年)を基に、男女の機会均等の実現や男女共同参画の意識の定着を目的としている。平成 22 年には保健学系男女共同参画推進委員会を設置し、「女性にやさしい環境づくり」を目的に具体的な取り組みを計画的に推進している。

保健学系の特徴として、教員全体に占める女性比率が約 50.1%を占め、とくに准教授、講師及び助教の比率は、それぞれ 54.5%、75.0%、75.0%を占めている(平成 25 年度)。これらの傾向は、看護学専攻教員に顕著であり、分野によっては女性が少ない状況にある。同様に、学部学生、大学院学生も女性の占める割合が高く、男女共同参画の推進は重要な課題として取り組んでいる。

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 医学科の教員組織である生命科学研究部教職員及び配偶者、その家族、あるいは医学科学生およびその家族にとっては、大学及び生命科学研究部の具体的な取組から、男女共同参画社会の実現のための形成促進、施策の推進を図ることにより、教育・研究と家庭の両立した安心な職場として期待されている。

(保健学科) 保健学科の目的を達成するために「女性にやさしい環境づくり」を推進している。保健学科では、男女共同参画の視点に立った制度・慣行の見直し、意識改革において、全教職員と在学生、今後採用される教職員、入学してくる学生を関係者として想定している。保健学系は女性の教職員・学生が多いこと、女性教員の少ない分野があることなどから、1) 女性教員の採用継続、2) 就労・就学・介護と家庭生活との両立支援、3) 政策・方針決定への参画の拡大等が期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科における男女共同参画の推進に関する委員会規則を制定しており、本規則は、各系(医学系、薬学系、保健学系)ごとに分け、各系の現状を踏まえた上で、その推進を図ることができる。明確に定められており、優れている点として評価できる。また、医学科に所属する学生が、男女ともに安心して就学できるように、学生委員会で細かな支援を実施している。更に、更衣室の整備や健康相談室の整備など環境の整備も実施した。

(保健学科) 大学が定めている男女共同参画基本計画は熊本大学 Web サイト、パンフレットで広く周知されており、新しい情報は随時メール等による提供が行われている。保健学系では、さらに関係教職員への周知を徹底すると共に、パンフレット等を活用した「意識改革のセミナー」を開催し、情報の浸透を図っている。特に男性教職員のセミナー参加を強く促している。

【改善を要する点】

(医学科) 男女共同参画の推進のため、ある程度目標達成のための実施をしているが、委員会による計画の目標達成へ向けた、さらに具体的な施策が必要であり、計画的な推進が必要である。男性教職員への意識定着も今後の課題となる。

(保健学科) 保健学科において、意識改革への計画は優れて実施され、熊本大学の就労・就学と家庭生活との両立支援の広報もされている。しかし、女性教員が多い保健学系では妊娠・出産期にある教職員も多く、出産期にある女性は、産前・産後休暇期間中の代替要員を強く希望している。熊本大学の基本計画には措置する計画が明記されているが、未だ実現されていない状況である。女性教員の多い保健学系から、積極的に環境整備を働きかけていく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I : 目的に照らして、男女共同参画に向けた活動が適切に行われ、成果を上げていること。

観点 男女共同参画の目的に照らして、目的を達成するためにふさわしい計画や具体的方針が定められているか。また、これらの目的と計画が広く公表されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科においては、国立大学法人熊本大学 男女共同参画推進基本計画(資料資料 E-1-1-1)を基に、(1)女性研究者の積極的な採用。(2)育児・介護休暇の支援。(3)セミナーの開催。(4)女性の参画の拡大等推進計画を定めている。また、生命科学研究部における男女共同参画の推進に関する委員会において、具体的な方針を定める。(資料 E-1-1-2)

医学薬学保健学系における進捗状況(資料資料 E-1-1-3)を熊本大学ホームページ男女共同参画において、広く公表している。(K73)

(資料 E-1-1-1) 男女共同参画推進基本計画 (資料 E-1-1-2) 男女共同参画への取り組み



(出典 熊本大学 Web サイトより抜粋)

(出典 熊本大学 Web サイトより抜粋)

(資料 E-1-1-3) ・男女共同参画推進進捗状況一覧

(平成25年4月1日現在) 各部局等における男女共同参画推進進捗状況一覧

部局等名	推進計画	進捗状況等
大学院生命科学 研究部 (医学系)	<p>1. 1月までに男女共同参画推進委員会を設置する。 既存の「医学部男女共同参画委員会部局委員」が「医学部男女共同参画推進委員会」を兼ね、生命科学系事務部長を加える。</p> <p>2. 各部局における男女共同参画推進の具体的な計画 (可能な限り数値目標を設定する。) を策定する。 (1) 男女共同参画推進セミナーを年1回程度実施し、参加者の男女比率について、男性教職員5割以上を目指し意識改革を行う。 (2) 育児休暇支援 現在育児休暇中及び育児休暇取得経験者から、休暇を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等の実態を調査・把握し、支援方法を検討する。 (3) 女性教職員の採用を15%以上とする (昨年度実績14.8%)</p> <p>(4) 介護休暇支援 介護休暇の実態を調査し、介護休暇取得経験者から休暇を申し出た際の①困ったこと、②気兼ね、③良かったこと、④配偶者の協力、⑤大学への要望等支援方法の実態を調査・検討し、支援方法を検討する。</p> <p>3. 大学への要望 (1) 男女共同参画推進に対する、苦情申し立て窓口・担当者等を設置・整備し、教職員に周知するとともに、問題点等に対し迅速な対応、解決を行う。 (2) 女性教職員を採用した場合、その部局の教育研究費の予算配分割合を増やす。 (3) 学長指名の副学長、学長特別補佐、理事に女性を登用する。</p>	<p>医学部における男女共同参画推進の対応 (平成20年1月31日付け回答) に基づき、具体的な計画を策定し進める予定でしたが、セミナー開催の講師謝金等の予算の措置が不可能であること等により推進できませんでした。 今後、男女共同参画を推進するためには、大学からの予算措置をお願いいたします。</p> <p>1 「熊本大学大学院生命科学研究部における男女共同参画の推進に関する委員会規則」を制定し、平成22年4月1日から施行した。本規則は、従来の生命科学研究部全体の男女共同参画推進委員会を、各系 (医学系、薬学系、保健学系) ごとに分け、各系の現状を踏まえた上で、その推進を図ることができるよう配慮した。また、委員長については、生命科学研究部長が全て担当し、研究部全体の統括にあたる。 なお、ユニット長を委員に加えることは、引き続き検討するが、推進委員会の開催にあたっては、常時、ユニット長が出席することとしている。</p> <p>2 (1) これまでのセミナーの開催実績はないが、全学のセミナー参加については、毎回呼びかけを行ってきた。 (2) 今年度内には実行予定である。←平成24年度に実行し、今後の支援策について検討した。 ●下記事項については、男女共同参画推進委員会と協議する ① 教職員の確保時期に対して、業務関連の情報提供を行う。 ② メンターの配置 (休業取得前後の時期を含める) ③ 一般教員に対して ④ 職員全体が休暇 (育児・介護休業、短時間勤務等) に関する理解を進めるよう、情報提供を行う。 ⑤ 男性教職員が育児休業を取得しやすい環境整備 (3) 昨年度は、目標数値に近いところまで改善している。 (4) 同上←平成24年度に実行したが、有効回答が得られなかった。</p>

(出典 生命科学系事務保有データを基に作成)

(保健学科) 熊本大学の目的と具体的な計画は、広く公表するために熊本大学 Web サイトに掲載されると共に、随時、新しい情報の提供が行われている。保健学系では、保健学系男女共同参画推進委員会において、熊本大学の基本方針に基づく計画を策定し(資料 E-1-1-4)、熊本大学 Web サイトに掲載し周知を図っている。また、全学パンフレットの掲示および個人配付を行い、情報の浸透と理解を促進している。

(資料 E-1-1-4)

・保健学系の年度計画

【平成23年度計画】

1. 生命科学研究部(保健学系)における男女共同参画に係る推進計画

- 1) 女性教員の採用を継続する
- 2) セミナーの開催
 - ・研究支援を受けた女性教員を講師として開催を予定している(平成24年度)
 - ・セミナー開催のための予算を計上する予定である(平成24年度)
 - ・セミナーの出席率を向上させるため、「保健学系男性職員」の70%以上の出席を目指す

【平成24年度計画】

1. 男女の機会均等の実現

- 1) 女性教員の採用を継続する
- 2) 女性の少ない専攻では、少なくとも女性教員を2名以上採用することを目標として依頼する

2. 男女共同参画の視点に立った制度・慣行の見直し、意識改革の推進

- 1) セミナーの開催
 - ・研究支援を受けた女性教員を講師として開催を予定している(平成24年度)
 - ・セミナー開催のための予算を計上する予定である(平成24年度)
 - ・セミナーの出席率を向上させるため、「保健学系男性職員」の70%以上の出席を目指す
- 2) 女性研究者と女子学生の交流会を年1回開催する

3. 就労・就学と家庭生活との両立支援

- 1) 育児・介護に関する相談窓口の業務内容について、年4回程度は広報する

【平成25年度計画】

1. 男女の機会均等の実現

- 1) 女性教員の採用を継続する
- 2) 女性の少ない専攻では、少なくとも女性教員を2名以上採用することを目標とする

2. 男女共同参画の視点に立った制度・慣行の見直し、意識改革の推進

- 1) セミナーの開催
 - ・啓発セミナーを開催する
 - ・セミナーの出席率を向上させるため、「保健学系男性職員」の70%以上の出席を目指す
- 2) 女性研究者と女子学生の交流会を開催する

3. 就労・就学と家庭生活との両立支援

- 1) 育児・介護等に関するに務める

4. 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大

- 1) 全学委員会委員(職指定等を除く)の女性委員の比率を3割程度とする

(出典：熊本大学 Web サイト)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 男女共同参画を推進する充実した計画が立てられており、また大学 Web サイトホームページ上から進捗状況もわかっている。男女共同参画の取組も含めて学部説明会、高校訪問等で周知している。

(保健学科) 保健学科は、熊本大学の男女共同参画推進基本計画を基に、保健学系男女共同推進委員会で年度計画を策定し、熊本大学 Web サイトで周知・公表している。また、必要に応じ、掲示やパンフレット配付等を行っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 計画に基づいた活動が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 医学科では、セミナー開催に伴う意識改革の推進を行い、熊本大学主催のシンポジウムにも積極的な参加を呼びかけている。男性職員にも意識改革を深めており、また、女性研究者の採用も概ね目標を達成している。就労・就学と家庭生活との支援については掲示での広報、育児・介護休暇支援に関しては、実態を調査・検討し、今後の支援策について検討した。(前掲 資料 E-1-1-3) (K73)

平成 25 年 5 月に生命科学研究部 (医学系) に在籍する女性教員は教授 1 名、准教授 2 名、助教 13 名で合計 16 名である (資料 E-1-2-1-1)。

医学科に所属する学生のうち、平成 25 年度末では女性は 29% 在籍している。男女とも円滑な学生生活を送るために、学生委員会において、就学状況調査を実施するなど細かな支援を実施している。さらに、学生が緊急時に教員に連絡することができるように、学生委員長は専用の携帯電話を 24 時間携帯し、不測の事態に対応している。ロッカーの整備をしているが、特に女子生徒が安心して更衣を出来るように専用の更衣室を整備した。その他、平成 25 年度からは健康相談室を整備し、体調不良等の学生が気楽に相談できる体制を整えた。

平成 24 年度より基礎医学研究者育成のための柴三郎プログラムが開始されているが、その中に「女性柴三郎コース」を用意しており、将来出産・育児を経ても途切れることのない研究指導および勉学の継続が出来るシステム構築を目指している。

平成 25 年度には熊本県内で働く女性研究者を紹介するロールモデル集が作成されたが、その中に生命科学研究部医学系より 4 名が参画し、女性研究者の将来のキャリアパスを想起するモデルとなった。

(資料 E-1-2-1)

・生命科学研究部 (医学系) 女性教員在籍者数

H25.5.1 現在

	教授	准教授	講師	助教	合計
医学系	1	2	0	13	16

(出典：生命科学研究部事務保有データを基に作成)

(保健学科) 女性教員の採用の年次推移をみると、新規採用教員に占める女性の比率は平成 22 年の 25% (1 名) から平成 25 年度の 67% (2 名) と増加している (資料 E-1-2-2)。しかし、この背景には看護系教員の採用が反映されており、女性教員の少ない分野では 1 名の採用であり、引き続き、女性教員の採用に努める必要がある。

意識改革のセミナーは、平成 24 年度に同僚のエンパワーメントを高める狙いもあり、研究支援を受けた女性研究者を講師として、支援の取得方法および成果の発表が行われた。

また、平成 25 年度は男女共同参画担当副学長に「男女共同参画社会の形成に向けて－熊本大学の取組と保健学系への期待－」を題する講演会を開催した。

大学の施策・方針決定過程への参画（全学委員会委員）は、平成 25 年度が 31.9% で高い水準を維持している。（K40、K73）

（資料 E-1-2-2）

・新規採用教員に占める女性比率

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
新規採用教員	4	4	3	3
新規採用女性教員	1 (25 %)	2 (50 %)	0 (0 %)	2 (67 %)

（出典：保健学系男女共同推進計画進捗状況）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

（医学科）計画に基づいた活動が行われ、女性研究者の積極的な採用が図られているが、引き続き他の目標達成に向けて積極的な活動を行う必要がある。しかし、概ね目標を達成している。

（保健学科）女性教員の採用の年次推移をみると、新規採用教員に占める女性の比率は、増加している。しかし、この背景には看護系教員の採用が反映されており、女性教員の少ない分野では1名の採用であり、引き続き、女性教員の採用に努めている。意識改革セミナーは確実に実施している。就労・就学と仕事の両立支援（産前・産後休暇中の代替要員の措置等）では、全学委員会等へ提案を進めている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の実績等から判断して、活動の成果が上がっているか。

（観点到係る状況）

（医学科）本観点は、医学科では設定していない。

（保健学科）全学的な取り組みの周知徹底や保健学系における推進計画の周知、意識改革推進セミナーの実施により、男女共同参画に対する意識が向上していると考えられる。また、男性教職員の参加率も目標（70%）を達成している（平成 24 年度：70.4%、平成 25 年度：71.0%）。（前掲資料 E-1-1-4）

女性教員の比率（公募中の者を含めていない）は、横ばい状態であるが、50%以上の高い水準を保っており、教員採用の意識の向上と共に成果も上がっている（資料 E-1-3-1）。

（K40）

(資料E-1-3-1)

・教員に占める女性比率 (各年度末現在)

		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
教授	教員数	27	27	28	26
	女性教員数	10(37.0%)	10(37.0%)	10(35.7%)	8(30.1%)
准教授	教員数	9	11	10	11
	女性教員数	4(44.4%)	5(45.5%)	5(50.0%)	6(54.5%)
講師	教員数	4	4	4	4
	女性教員数	3(75.0%)	3(75.0%)	3(75.0%)	3(75.0%)
助教	教員数	19	18	16	16
	女性教員数	14(73.7%)	13(72.2%)	12(75.0%)	12(75.0%)
計	教員数	59	60	58	57
	女性教員数	31(52.5%)	31(51.7%)	30(51.7%)	29(50.1%)

(出典：保健学系男女共同推進計画進捗状況)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(保健学科) 制度的な部分で部局単独では成果が上がらない部分もあるが、意識向上セミナーへの参加率、特に男性職員の参加率が目標の7割以上を達成するなど、男女共同参画に対する意識向上の成果は上がってきている。また教員の女性比率も高水準を保っている。以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 改善のための取り組みが行われているか。

(観点到係る状況)

(医学科) 本観点は、医学科では設定していない。

(保健学科) 保健学系男女共同参画推進委員は、女性教員の仕事上、学生の学習・研究活動の困りごとのみならず、保健学系の中高年代(50歳以上)は約62%を占めるため、介護に関する悩みや介護施設に関する悩みなど積極的に傾聴し、教職員及び学生のニーズを推進計画に反映できるように努めている。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(保健学科) 教職員に対する組織的なニーズ調査等は実施していないが、委員が傾聴したことや前年度の実施状況等を考慮して次年度の推進計画を策定するなどの取組を行っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目 目的に照らして、男女共同参画が適切に行われ、成果を上げていること。

改善、向上している。

(医学科)「国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画(平成19年)」が制定された当初は、まだ積極的な取り組みが実施されておらず、平成22年に「生命科学研究部男女共同参画推進委員会」を設置した後、医学系における具体的な計画、取り組み、広報活動による成果を確実に充実させている。また、医学部医学科に所属する学生が、男女ともに安心して就学できるように、学生委員会で細かな支援を実施している。更に、女子更衣室や健康相談室の整備など環境の整備も実施した。これらのことから、男女共同参画推進の目的は確実に成果をあげている。

(保健学科)保健学系男女共同参画推進計画は、平成23年度から計画され、3年を経過した。それ以前までは、熊本大学の「地域連携によるキャリアパス環境整備」事業(平成18年)や「国立大学法人熊本大学男女共同参画推進基本計画」(平成19年)を基に、保健学系では中期計画の推進に努めてきた。具体的な数値目標を設定した平成23年度以降は、1)女性教員が50%以上という高い比率を維持しながら、女性教員の少ない分野に1名採用できたこと、2)意識改革については、保健学系男性教職員のセミナー参加率は毎年70%を維持している。また、育児中の研究支援計画に申請した女性教員の成果を学内セミナーで公表してもらうなど、男女共同参画推進の目的は確実に成果をあげている。

VI 管理運営に関する自己評価書

1. 管理運営の目的と特徴

(医学科) 医学科では管理運営組織として医学科会議が組織され、その下に各種委員会が設けられ、特に教学に関する管理運営を行っている。

また、事務部門については医学事務チームを置き、管理運営、教育研究の支援を行うとともに、委員会等にも参加し、医学科の管理運営にも参画している。

(保健学科) 保健学科を担当する教員・在籍する学生が関わる教育・研究及び社会貢献等に関する制度や施設・設備の環境を整備すること、これらに関わる諸課題への対応・改善に資することを目的とする。

教学及び管理運営に関する重要事項を審議決定する会議として、保健学科会議及び保健学系運営委員会を設置し、大学院保健学教育部の教授会及び教員組織の生命科学研究部運営会議と連携を取りながら管理運営を行っている。

保健学科を担当する事務組織は、保健学事務チームを設置し、担当する委員会の運営等を支援するなど保健学科の管理運営に携わっている。

[想定する関係者とその期待]

(医学科) 医学科を担当する教職員、医学科に在籍する学生、卒業生、医学部附属病院の教職員、実習受け入れ施設、卒業後の臨床研修施設、就職先、地域社会など。医師及び医学者としてふさわしい知識と技能、倫理観を備えた人材を育成する。

(保健学科) 保健学科を担当する教職員、保健学科に在籍する学生とその保護者、卒業生、保健学科の専門的知識の恩恵を受ける人々及び地域社会の人々を関係者と想定している。これらの関係者から、教育研究及び社会貢献等が効果的かつ効率的にできるための制度や施設・設備の充実が期待される。

2. 優れた点及び改善を要する点の抽出

【優れた点】

(医学科) 医学科では、管理運営組織として医学科会議が設けられ、医学科長のリーダーシップのもとに、その目的達成のための意志決定が行われており、迅速かつ円滑に運営が行われている。また、これらを支援する事務組織として生命科学系事務ユニットが置かれ、その管理運営及び活動も円滑に行われており、優れている点として評価できる。

(保健学科) 保健学科の管理運営とくに教学の組織として保健学科会議が設けられ、その下に運営委員会並びに各種委員会が組織されている。また支援組織として保健学事務チームが置かれ、保健学科の目的の達成及び管理運営上の諸課題を迅速かつ円滑に審議決定している。

【改善を要する点】

(医学科) 複雑で巨大な組織(7部局)を、少ない人数で管理運営が行われている。ただ、部局等の目的を達成するのに必要な事務組織体系ではなく、また十分な職員が配置されているとは言えない。

(保健学科) 保健学科は、前身である医療技術短期大学部(昭和51年設置)から40年近く経過しているが、当時の施設・設備を現在も使用しているものが多くあり、教育研究に支障があるものや事故・怪我の危険性があるものについては、改善していく必要がある。

3. 観点ごとの分析及び判定

分析項目 I 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること

観点 管理運営のための組織及び事務組織が、適切な規模と機能を持っているか。また、危機管理等に係る体制が整備されているか。

(観点に係る状況)

医学科の教育を担当する教員等で構成する医学科会議・各種委員会、保健学科の教育を担当する教員で構成する保健学科会議・各種委員会において、各学科の目的達成、管理運営上の特に教学に関する重要事項等を審議している。さらに、各学科会議で審議された事項の最終決定の会議として医学部運営会議が設置されている(Z-1-1-1)(資料 Z-1-1-2)(資料 Z-1-1-3)。

事務組織については、生命科学系事務ユニット長の下、医学科においては、医学系事務チームの総務・人事(計7名)、経理(計6名)、研究支援(計6名)、安全衛生(計1名)、医学系教務(13名)、事務支援センター(計3名)が配置され、保健学科においては、保健学事務チームのチームリーダー1人、総務担当(5人)及び教務担当(5人)が配置され、医学部運営会議及び各学科会議等の事務支援を行っている。(資料 Z-1-1-4)

危機管理体制については、本学が定める「熊本大学危機管理規則」及び各種危機管理マニュアル等に従い対応しており、本学部においても学部長、各学科長のスケジュールを担当事務でも共有するとともに、緊急時の連絡網を整備している。また、火災時の消防組織を編成しており、緊急時の対応を整備している。(資料 Z-1-1-5)(資料 Z-1-1-6)

その他、研究不正防止における「研究活動の不正行為の防止対策等に関する規則」、ヘルシンキ宣言等の趣旨に沿った倫理的配慮を図るための「生命倫理に関する規則」の遵守徹底を図り運用している。

また、本荘・大江事業場に設置された安全衛生委員会による職場巡視による指摘事項の改善など、安全管理の徹底を図っている。

(資料 Z-1-1-1)

・医学部運営会議要項 (抜粋)

(構成)

第2条 運営会議は、熊本大学医学部教授会（以下「教授会」という。）の構成員（生命科学研究部の併任教授を除く。）のうち、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 医学部長
- (2) 医学部副学部長
- (3) 医学科長
- (4) 保健学科長
- (5) 医学科の教授 3人
- (6) 保健学科各専攻の教授 各1人

2 前項各号に掲げる者のほか、医学部長が必要と認めた教授会構成員を運営会議に加えることができる。

3 第1項第5号及び第6号の構成員は、教授会において当該年度内に定年により退職する教授以外の者から選出する。

4 第1項第5号並びに第6号及び第2項の構成員の任期は、医学部長の任期の終期を超えることができない。

5 第1項第5号及び第6号の構成員に欠員が生じた場合は、速やかに補充するものとする。

(審議事項)

第3条 運営会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 将来構想に関すること。
- (2) 医学部の規則等に関すること。
- (3) 医学部の予算・決算に関すること。
- (4) 入学試験に関すること。
- (5) 学生の入学、卒業、その他在籍に関すること。
- (6) 学生の退学、休学、除籍、賞罰その他身分に関すること。
- (7) 外国人留学生の入学、退学、休学、除籍、終了その他身分に関すること。
- (8) 教授会から付託された事項
- (9) その他医学部の運営に関すること。

(出典：医学部運営会議要項)

(資料 Z-1-1-2)

・熊本大学医学部医学科会議要項 (抜粋)

(構成)

第2条 医学科会議は、次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 生命科学研究部の専任の教授で医学科の教育を担当するもの
 - (2) 生命科学研究部の併任教授で医学科の教育を担当するもの
 - (3) 医学部附属病院の専任の教授
 - (4) 保健センターの専任の教授
 - (5) 生命科学研究部及び医学部附属病院の専任の准教授及び講師で医学科の教育を担当する者のうちから選出されたもの4人以内
 - (6) 教授に欠員を生じた生命科学研究部の研究分野(医学系に限る。)及び臨床医学教育研究センター(併任教授が配置されているものを除く。以下「研究分野等」という。)の専任の准教授又は講師 当該欠員を生じた研究分野等ごとに各1人
- 2 前項第5号に掲げる者の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の構成員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 第1項第6号に掲げる者の任期は、当該欠員が補充されるまでの間とする。

(審議事項等)

第3条 医学科会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 医学科長候補者の選出に関する事。
- (2) 医学科における教育課程編成の原案に関する事。
- (3) 医学科の教育に関する事。
- (4) 教授会から付託された事項
- (5) その他医学科の運営に関する事。

(出典：熊本大学医学部医学科会議要項)

(資料 Z-1-1-3)

・保健学科会議要項 (抜粋)

第1条 この要項は、熊本大学医学部教授会規則(平成16年4月1日制定)第8条第3項の規定に基づき、保健学科会議に関し必要な事項を定める。

(構成)

第2条 保健学科会議は、保健学科の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

(審議事項等)

第3条 保健学科会議は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 保健学科における教育課程編成の原案に関する事。
- (2) 保健学科の教育に関する事。
- (3) 教授会から付託された事項
- (4) その他保健学科の運営に関する事。

(出典：保健学科会議要項)

(資料 Z-1-1-4)

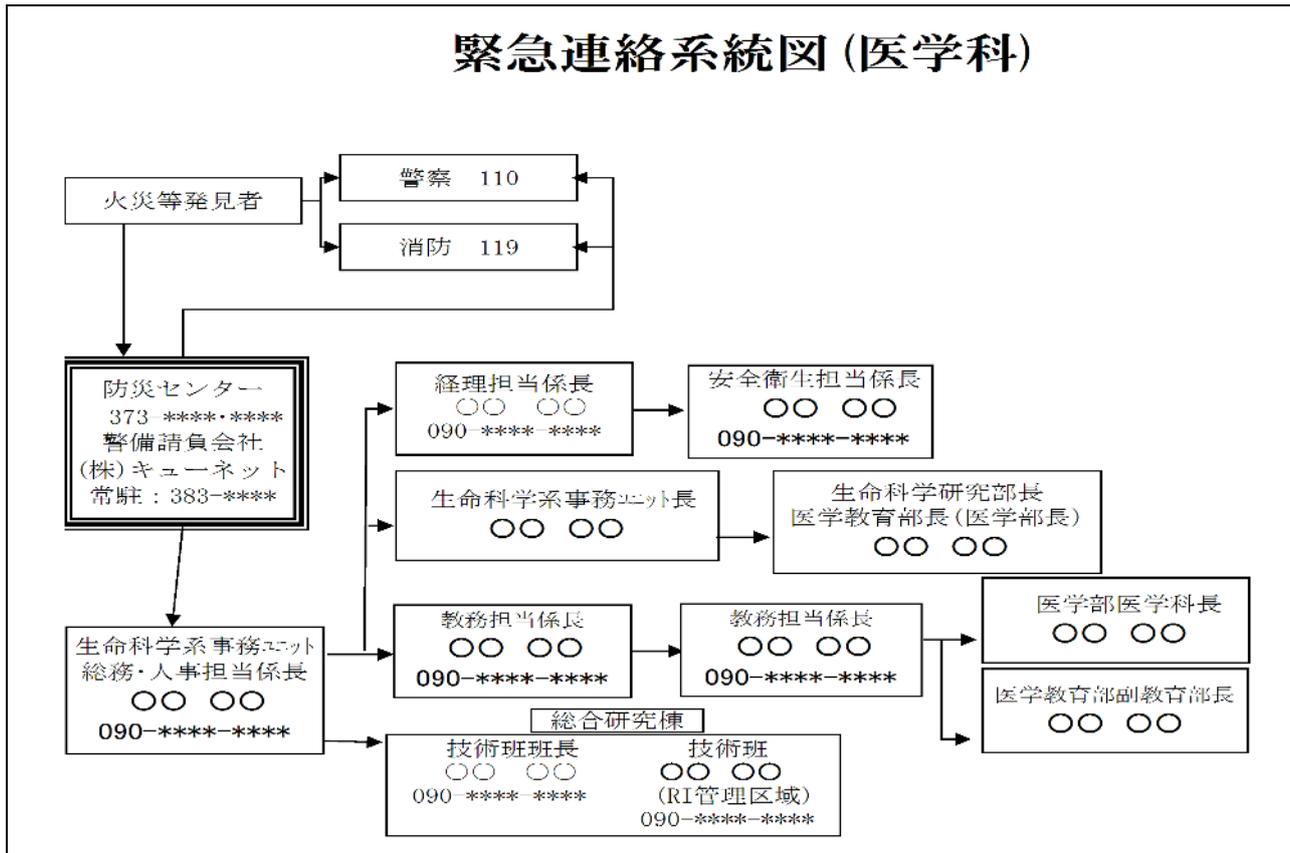
・事務組織図 (該当部分のみ)



(出典：熊本大学 Web サイト)

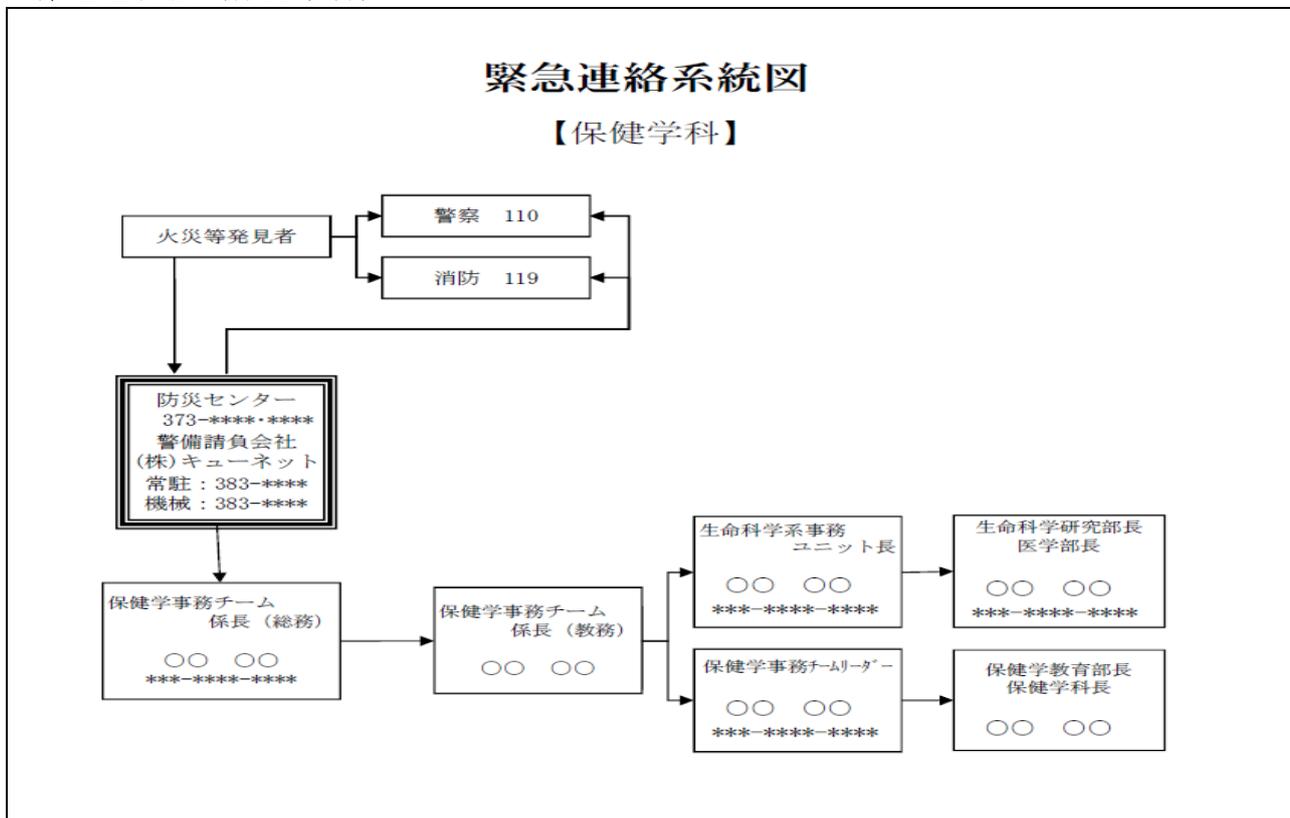
(資料 Z-1-1-5)

・緊急連絡網 (医学科)



(出典：緊急連絡系統図)

・緊急連絡網 (保健学科)



(出典：緊急連絡系統図)

(資料 Z-1-1-6)

・自衛消防組織編成表 (医学科)

自衛消防組織の編成と任務		
(生命科学部(医学系)本部隊)		
		(平成26年4月1日現在)
本部隊長		
医学部長		
副本部隊長 (統括管理者)		
ユニット長		
	指揮・通報連絡班	
	班長【スタッフリーダー(総務、人事担当)】	・消防団、各分団、ガス会社、電力会社等との連絡
	細胞病理学教職員(隊長所属分野)	・記録の作成
	神経化学教職員	・災害見舞いの対応受付
	脳回路構造学教職員	・訓練計画
	総研管理室教職員	・その他、他班に属さないこと
	本荘RI教職員	
	総務、人事担当スタッフ	
	初期消火班	
	班長【スタッフリーダー(安全衛生担当)】	・消火器、バケツ等を利用した初期消火作業
	感染防御学教職員	・消火用水の運搬
	微生物学教職員	・隣接する延焼物の取り除き又は遮断等一切の消防作業
	細胞情報薬理学教職員	・ガスによる火災誘発の防止
	生体機能薬理学教職員	・電気関係の応急処置
	分子酵素化学教職員	
	病態生化学教職員	
	エチカコミュニケーション教職員	
	事務支援センタースタッフ	
	救出救護班	
	班長【スタッフリーダー(研究支援担当)】	・救出、救助、搬出
	知覚生理学教職員	・負傷者の応急処置その他応急処置
	分子生理学教職員	
	公衆衛生・医療科学教職員	
	環境保健医学教職員	
	法医学教職員	
	腫瘍医学教職員	
	呼吸器外科学教職員	
	研究支援担当スタッフ	
	避難誘導班	
	班長【スタッフリーダー(経理担当)】	・救出・救助及び搬出の介助
	形態構築学教職員	・負傷者の応急手当その他応急処置
	生体微細構築学教職員	
	呼吸器内科学教職員	
	生命倫理学教職員	
	放射線治療医学教職員	
	経理担当スタッフ	
	搬出班	
	班長【スタッフリーダー(教務担当)】	・消火用器具及び燃料、救護用器具類等の資材整備
	分子病理学教職員	・重要物品の搬出及び保管
	免疫識別学教職員	・非常の場合の炊き出し及び供与
	分子遺伝学教職員	
	免疫学教職員	
	機能病理学教職員	
	乳腺・内分泌外科学教職員	
	臨床医学教職員教育研究センタースタッフ	
	教務担当スタッフ	

(出典：本荘北地区消防計画)

・自衛消防組織編成表緊急連絡網（保健学科）

自衛消防組織編成表			
(本荘南地区隊)			
			(平成26年4月1日現在)
地区隊長			
保健学教育部長			
副隊長			
保健学事務 チームリーダー			
		総務(通報・連絡)班	
		班長(保健学副教育部長)	
		・保健学事務チーム職員 ・こばと保育園職員	
		消火班	
		班長(検査技術科学専攻主任)	
		・医療技術科学講座(検査系)教員	
		誘導班	
		班長(放射線技術科学専攻主任)	
		・医療技術科学講座(放射系)教員	
		救護班	
		班長(看護学専攻主任)	
		・看護学講座教員	

(出典：本荘南地区消防計画)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科)管理運営のための組織として、医学科会議、医学部運営会議が設置されており、適切な規模と機能を持っており、また、事務組織による支援体制及び、危機管理体制についても適切に整備されている。

(保健学科) 管理運営のための諸課題等を検討する会議体が整備されている。また、事務組織は保健学事務チームが設置され保健学科の支援体制が整備されている。危機管理に関しては、全学の規則等の周知徹底を行っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 構成員(教職員及び学生)、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズが把握され、適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

教職員、その他学外関係者からの管理運営に関する意見・要望等について、医学科では、各種委員会及び事務等で把握し、保健学科では、各専攻や事務で把握し、意見・要望等の内容によって、該当委員会や学科会議等で分析・検討を行い、検討結果を説明するとともに、適切な形で管理運営に反映させている。

学生からの意見・要望等に関しては、毎年実施される「学長と学生代表との懇談会」に先立ち、医学科では、医学部長、医学科長、教育・教務委員長、学生委員長及び臨床医学教育センター教員が出席する「医学部長と学生代表との懇談会」において、保健学科では、学生委員会、運営委員会において、分析・検討し、その結果は学生代表に説明するとともに、適切な形で管理運営に反映させている。(資料 Z-1-2-1)

(資料 Z-1-2-1)

・学生からの意見・要望等(平成 25 年度)

(医学科)

要望 1 : 卒業試験の合格基準・方法と形式について、外部評価者を採用するなどの対応をしてほしい。

対応 1 : それぞれの問題のレベルなり、国家試験の内容を踏まえた内容になっているか、皆さんに自由記入でご意見いただいた部分は十分考えていきたい。外部評価まではせず、異議があれば異議申立てをしていただきたい。

要望 2 : 問題冊子、解答、講評を公開してほしい。

対応 2 : 本学からも、模範解答提示の通達が来ているので、今後、公開する方向で対処したい。

要望 3 : 卒業試験の試験日程、試験科目数を改善してほしい。

対応 3 : 今後、統合試験の導入を検討している。

(以下省略)

(保健学科)

要望 1 : 情報演習室のパソコンにオフィスソフトを入れて欲しい。

対応 1 : 経費の問題があり難しいが、オフィスソフトと互換性のあるソフトがインストールされているので活用して頂きたい。

要望 2 : 試験日程がハードである。配慮願いたい。

対応 2 : 2 週間の試験期間を設けており、可能な限り配慮しているので理解いただきたい。

要望 3 : 図書室の開館時間の延長

対応 3 : 利用や学生の帰宅時の安全管理等を考慮して時間設定をしています。

(出典:「医学部長と学生代表との懇談会」記録、学生からの意見・要望書より抽出)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 教職員からの意見・要望等については、医学科会議や関係委員会等において随時収集・検討されている。また、学生については、意見・要望の収集から検討・反映に至

るまでの体制が明確である。

(保健学科) 保健学科教職員・学生、その他学外関係者の管理運営に関する意見やニーズは、各専攻、委員会及び事務で把握しており、該当委員会や運営委員会等で適切な形で管理運営に反映している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 管理運営のための組織及び事務組織が十分に任務を果たすことができるよう、研修等、管理運営に関わる職員の資質の向上のための取り組みが組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

管理運営に関わる教職員の研修は、大学で開催される各種講習会及び研修会等のほか、学外の各種機関・団体等が実施するものにも参加させ、資質向上を図っている。また、事務職員においても大学が開催する研修等に積極的に参加している。(資料 Z-1-3-1)

(資料 Z-1-3-1)

・事務職員の研修受講一覧

年度	受講人数	主な研修
平成 22 年度	17	・九州地区国立大学法人係長研修 ・九州地区国立大学医学部教務・学生系研修
平成 23 年度	36	・九州地区国立大学法人等テーマ別研修 ・業務遂行能力向上研修
平成 24 年度	71	・熊本大学共通スキル育成研修 ・メンタルヘルスラインケア研修会
平成 25 年度	66	・職群固有スキル研修 ・熊本大学会計実務研修 ほか

(出典：生命科学研究部事務データを基に作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

管理運営に関わる職員については、大学主催の研修会や説明会などに積極的に参加している。また、他大学主催で行われる医学部教務事務に特化した研修にも、毎年参加している。以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

観点 活動の総合的な状況について、根拠となる資料・データ等に基づいて、自己点検・評価が行われているか。

(観点に係る状況)

医学部単独での自己点検・評価は実施していない。熊本大学として行う自己点検・評価において1部局として実施している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

医学部では、熊本大学が行う自己点検・評価については、各学科会議・医学部運営会議

など対応可能な体制を整備している。以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 活動の状況について、外部者（当該大学の教職員以外の者）による評価が行われているか。

（観点に係る状況）

毎年5月下旬～7月に開催する医学科後援会理事会及び保健学科後援会理事会において、現状報告と併せ医学部への意見・要望等についての意見交換を行っている。理事会で出された意見・要望等については関係委員会等において改善に向けて検討している（資料 Z-2-2-1）。

（資料 Z-2-2-1）

・後援会で出された意見・要望

意見 昨年の豪雨時の休講連絡が遅かった。
 対応 暴風による休講措置は取り決めがあるが、大雨による休講措置の取り決めはなく、また、大雨については予測が難したため連絡が遅れた。今後は、可能な限り迅速な対応を行っていく。
 意見 トイレの汚れがひどかったが、どうなったか。
 対応 清掃会社が変わり、清掃回数も増やしたので、現在は清潔を保っている。

（出典：後援会議事要録）

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

外部者の意見・要望等を聞く機会を設け、出された意見・要望等に対しは、該当する委員会等で検討している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 評価結果がフィードバックされ、改善のための取り組みが行われているか。

（観点に係る状況）

自己点検・評価および外部者の評価結果、意見等については、医学科・保健学科の該当する会議等において検討を行い、改善のための取り組みを行っている。（資料 Z-2-3-1）

（資料 Z-2-3-1）

・医学科各種委員会

委員会名	構成	審議事項
医学科会議	1. 生命科学研究部の専任教授で医学科の教育を担当する者 2. 生命科学研究部の併任教授で医学科の教育を担当する者 3. 医学部附属病院の専任教授 4. 保健センターの専任教授 5. 生命科学研究部及び医学部附属病院の専任准教授及び講師で医学科の教育を担当する者 (6) 教授に欠員を生じた生命科学研究部の研究分野(医学系)	(1) 医学科長候補者の選出に関する事。 (2) 医学科における教育課程編成の原案に関する事。 (3) 医学科の教育に関する事。 (4) 教授会から付託された事項 (5) その他医学科の運営に関する事。

	及び臨床医学教育研究センターの専任准教授又は講師 当該欠員を生じた研究分野教員	
医学科教育・教務委員会	1. 教授会で選出された基礎系教授 5 人及び臨床系教授 5 人 2. 准教授及び講師のうちから選出された 4 人 3. 助教のうちから選出された 2 人 4. 医学科学生委員長（学生委員長の任にある者が第 1 号により選出された場合を除く。） 5. 臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1 人	委員会は、教育の方針及び教務に関し、審議を行い、その円滑な運営を図ることを目的として、次の事項について審議する。 (1) 教育課程の編成及び授業に関すること。 (2) 学生の修学指導に関すること。 (3) 学生の入学、退学、転学、休学、復学、転部及び卒業に関すること。 (4) 科目等履修生に関すること。 (5) その他教務に関すること。
カリキュラム企画・評価委員会	1. 医学科長 2. 医学科教育・教務委員会委員長 3. 臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1 人 4. 医学科の教育を担当する教授および准教授から教務委員会が指名する者 4 人	委員会は、医学科のカリキュラムに関する企画・評価を行い、その結果を医学科教育・教務委員会に諮る。
医学科学生委員会	1. 生命科学研究所の専任の教授で医学部の教育を担当する基礎系及び臨床系のうちから教授会で選出された者各 2 人 2. 准教授及び講師のうちから選出された者 2 人 3. 臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1 人	委員会は、学生の厚生指導に関する問題について審議する。
医学科入試委員会	1. 医学部長 2. 医学科長 3. 医学科教育・教務委員会委員長 4. 臨床医学教育研究センターの専任の教授又は准教授 1 人 5. 生命科学研究所専任の教授で医学科の教育を担当する者の中から医学部長が指名する者 3 人	委員会は、医学科の個別学力検査等に関する次に掲げる事項を審議する。 1. 選抜方法及び学力検査実施教科・科目に関すること。 2. 学生募集要項等に関すること。 3. 入学試験の実施方針に関すること。 4. 合格者の選考に関すること。 5. その他入学試験に関し委員長が必要と認めた事項

(出典：医学科各種委員会一覧)

・保健学系各種委員会

委員会名	構成	審議事項
保健学系運営委員会	教育部長、副教育部長、各専攻主任、教育部長が指名する者、ユニット長	保健学科及び保健学教育部の管理運営に関する事項、生涯学習に関する事項
保健学系教員人事管理委員会	教育部長、副教育部長、各専攻主任、教育部長が指名する者	教員人事管理の具体的方策に関する事項、その他教員人事管理に関し必要な事項
入試委員会	教育部長、各専攻から教授1人、教育部長が指名する教授（連続2期不可）	選抜方法、学力検査実施教科・科目、学生募集要項、入試の実施方針、合格者の選考、その他入試に関する重要事項
大学院教育委員会	委員長、教務委員長、各専攻1人（博士後期課程研究指導教授）	学事予定、教育課程の編成、授業、学生の修学指導、単位、課程の修了、留学生、教育評価、教育改善及びその他教務に関する事項、教員資格審査
教務委員会	委員長、各専攻1人（講師以上）	学事予定、教育課程の編成、授業、学生の修学指導、単位、課程の修了、留学生、教育評価、教育改善及びその他教務に関する事項
学生委員会	委員長、各専攻1人（講師以上）	学生の福利厚生及び厚生補導に関する事項
予算委員会	委員長、各専攻2人	予算配当の立案等に関する事項
施設・環境委員会	委員長、各専攻2人	施設の維持管理・新設拡充に関する事項、駐車・駐輪に関する事項、支線LANに関する事項、安全管理・環境保全に関する事項、全学等の安全衛生委員会からの各種調査に関する事項、省エネに関する事項、廃棄物対策に関する事項
FD委員会	委員長、各専攻1人（講師以上）	FD活動に関する事項
図書委員会	委員長、委員長所属専攻以外の専攻各1人	図書室の運営に関する事項
広報・紀要委員会	委員長、各専攻1人（講師以上）	広報に関する事項、紀要の発刊に関する事項
入試実施委員会	委員長、看護学専攻2人、他専攻各1人	入学試験の実施に関する事項
目標・評価委員会	教育部長、副教育部長、各専攻主任、大学院教育委員長、教務委員長、学生委員長、FD委員長、予算委員長、施設・環境委員長	中期目標・中期計画に関する事項、組織評価に関する事項、自己点検評価に関する事項、教員の個人活動評価方法に関する事項、大学院保健学教育部の将来構想に関する事項
国際化推進委員会	教育部長、副教育部長、各専攻主任、各専攻から1人	国際（学術・学生）交流に関する事項、国際共同研究・受託研究に関する事項、その他国際化に関する事項

(出典:保健学系各種委員会名簿より作成)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

評価・意見に対して、それぞれの学科に検討する会議体を整備し、改善のための取り組みを行っている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

観点 目的(学士課程であれば学部、学科または課程ごと、大学院であれば研究科または専攻等ごとを含む。)が適切に公表されるとともに、構成員(教職員及び学生)に周知されているか。

(観点到に係る状況)

(医学科) 医学科の教育研究上の目的は、熊本大学及び医学科の Web サイト、学生便覧等に掲載し、構成員及び社会一般に広く公開・周知している。

(保健学科) 保健学科の教育研究上の目的は、熊本大学及び保健学科の公式 Web サイト、学生便覧並びに保健学科パンフレット等に掲載し、公開・周知している(資料 Z-3-1-1, Z-3-1-2, Z-3-1-3)。

(資料 Z-3-1-1)

・教育研究上の目的

医学科は、医学及び関連領域における社会的な使命を強い倫理観をもって達成するために必要な科学的で独創性に富む思考力と人間性とを涵養させつつ、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材を育成することを目的とします。

保健学科は、生命や人間の尊厳に基づく心豊かな教養及び高度な専門的知識・技術を備え、チーム医療のスタッフとして活動し、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成することを目的とします。

(出典：熊本大学 Web サイト)

(資料 Z-3-1-2)

・教育目標(抜粋)

教育目標

【1】保健学科教育目標

1) 命の尊さを深く認識すると共に豊かな教養と人間性に裏打ちされた倫理観をもち人々の役に立つ医療人及び教育専門家を育成する。

2) 確かな専門知識と技術を基礎に、医療技術の進歩や情報化に相応して、チーム医療に対応できる医療人を育成する。

3) 高度な専門知識と自主的判断能力、主体的探求能力を備え、先端医療技術の開発に携わることのできる資質を備えた医療人及び教育専門家を育成する。

4) 社会、医療を取り巻く環境の変化に対応し、地域に根ざした健康の保持増進や生活の質の向上という社会的要請に対し、疾病の予防や環境問題に取り組むことのできる医療人を育成する。

5) 幅広い社会的視野を持ち、国際的保健医療活動または地域に密着した保健医療活動に貢献できる医療人を育成する。

6) 常に適正な問題意識を持ち、自ら問題を解決していく能力を有し、生涯にわたって学習・成長していくことができる医療人及び教育専門家を育成する。

(略)

(出典：保健学科学生便覧)

(資料 Z-3-1-2)

・保健学科パンフレット

看護学専攻

看護師、保健師、助産師ならびに高等学校看護教諭の養成を目的とし、チーム医療・地域に密着した看護活動ができる人材を育成します。

- 構成
基礎看護学分野(看護基礎学)/看護教育学分野(看護教育学)/臨床看護学分野(成人看護学、精神看護学)/母子看護学分野(母性看護学、助産学、小児看護学)/地域看護学分野(地域看護学、老年看護学)
- 取得可能資格(学位、国家試験受験資格及び教員免許)
学士(看護学)/看護師/保健師*/助産師*/高等学校教諭一種免許状(看護)*
*看護により一つを兼修できます。ただし人数に限りがあります。
- 卒業後の進路
病院、保健所、保健福祉センター、介護老人保健施設、高等学校看護学科教諭、大学院進学(他大学を含む)等
- 入学定員
70名、3年次編入学 10名

放射線技術科学専攻

放射線等を利用して診断に必要な医療画像を提供するだけでなく、将来の研究者や教育者となる診療放射線技師を育成します。

- 構成
医用理工学分野(医用基礎科学、医用情報システム工学)
医用画像学分野(画像機器工学、診断画像学、放射線制御学)
- 取得可能資格(学位、国家試験受験資格)
学士(保健学)/診療放射線技師
- 卒業後の進路
病院、検診センター、放射線機器関連企業、大学院進学(他大学を含む)等
- 入学定員
37名、3年次編入学 3名

検査技術科学専攻

診断・治療や健康状態の把握に必要な検査を行う臨床検査技師、ならびに将来の研究者や教育者となる医療人を育成します。

- 構成
検査情報科学分野(細胞観察病理学、生理機能検査学)/生体情報科学分野(血液免疫検査学、生体化学分析検査学、環境・病態検査学)
- 取得可能資格(学位、国家試験受験資格)
学士(保健学)/臨床検査技師
- 卒業後の進路
病院、検診センター、研究所、検査機器・試薬関連企業、大学院進学(他大学を含む)等
- 入学定員
37名、3年次編入学 3名

(出典：保健学科パンフレット)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

目的がインターネットや冊子等を活用し適切に公表されるとともに、構成員に周知されている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 入学者受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針が適切に公表・周知されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) アドミッション・ポリシーは、本学 Web サイト及び入試広報等により、学位授与方針は医学部 Web サイトにより、学内外に向けて適切に広く公表・周知している。(資料 Z-3-2-1)

(資料 Z-3-2-1)

・ 医学科アドミッション・ポリシー

《医学科アドミッション・ポリシー》

医学部医学科では、「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な使命を追及、達成しうる人物を育てるために、科学的で独創性に富む思考力を涵養すると共に、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材教育を実施すること」を教育目標としています。

このような教育目標を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

- 1) 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる豊かな人間性を持つ人
- 2) チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性と高い倫理観を持つ人
- 3) 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
- 4) 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
- 5) 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
- 6) 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

(出典：医学部 Web サイト)

(保健学科) 保健学科の入学受入方針、教育課程の編成・実施方針及び学位授与方針は、熊本大学及び保健学科の公式 Web サイト、保健学科学生便覧並びに保健学科パンフレット等に掲載するとともに、出前授業やオープンキャンパス等を活用して、学内外に公表している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

Web サイト、大学案内冊子、パンフレット、募集要項やオープンキャンパス等を活用し、広く学内外に公表・周知している。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 教育研究活動等についての情報（学校教育法施行規則第 172 条に規定される事項を含む。）が公表されているか。

(観点に係る状況)

医学部の教育研究に関する活動状況は、熊本大学・医学部 Web サイトに掲載し、学内外に広く公表している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

熊本大学及び医学部 Web サイト等を活用し、広く学内外に公表・周知している。
以上のことから期待される水準にあると判断する。

分析項目VI 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

観点 教育研究活動を展開する上で必要な施設・設備が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備における耐震化、バリアフリー化、安全・防犯面について、それぞれ配慮がなされているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 講義室等は本荘北地区の医学教育図書棟に集約されており、1・2階に付属図書館医学系分館を備え、3階以上に講義室4室、実習室3室、ゼミ室2室、情報演習室1室が配置され、専門教育の講義・実習を行っている。

また、附属の臨床医学教育研究センターにはチュートリアル室15室があり、チュートリアル実習や臨床実習入門などの少人数学習を行っている。

バリアフリーの対策については、ほとんどの建物においてスロープやエレベーターが設置されている。

安全・防犯面については、全ての建物が機械警備を行っており、夜間・休日は部外者の入室はできないようになっている。また、本荘地区内の警備については、警備会社との契約により、昼夜ともに定期的に警備員が巡回している。

(保健学科) 講義室8室、セミナー室8室、実験実習演習室37室、研究室11室(教員室は除く)、情報教育を中心に行うためのパソコン室2室、自習室4室を備えている。講義室等は、各種セミナーや研究会活動にも利用している。また、自習室・パソコン室は、22時まで使用することができ有効に活用されている(資料 Z-4-1-1)。さらに、各教科教育に必要な資料を備えた保健学図書室が設置している。

これまで部分的にバリアフリー化の対策がとられてきたが不十分である。特に身体疾患者や体調不良者にとって、5階建てにも関わらずエレベーターが設置されていない点は大きなマイナス要因である。

安全・防犯面は、建物は機械警備を行っており、夜間等の部外者は入れないようにしている。また、警備会社との契約で昼夜とも警備員が定期的に構内を巡回している。

(資料 Z-4-1-1)

・学生生活上の留意事項(抜粋)

【17】第1、第2情報演習室の入退室システムについて

入室には、学生証をカードリーダーに通すと解錠します。通常7:00~22:00まで入室できます。

【18】学生自習室の利用について

学生自習室の利用は、22時までとする。学習のために設置されている部屋ですので、各自そのことを自覚しマナーを守って利用してください。

(出典：保健学科学生便覧)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 教育研究活動に必要な施設・設備は計画的に整備され、有効に活用されている。

今後の臨床医学研究棟の建て替えも含めて、基礎及び臨床研究・教育の拠点としてふさわしい施設となっている。

(保健学科) 教育・研究に必要な施設・設備は、概ね整備され有効に活用されている。また、安全・防犯面においても整備されている。今後は、完全なバリアフリー化や身体疾患者等のためのエレベーターの設置が課題となる。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 教育研究活動を展開する上で必要な ICT 環境が整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 本荘地区には、全学的な教育・研究用のネットワークが構築されており、数多くの無線 LAN アクセスポイントも設置されている。また、情報演習室に総計 130 台の PC 及び 3 台のプリンターが配置され、授業内外で学生が利用できるようになっており、ICT 環境を有効に活用している。

(保健学科) 保健学科内に無線 LAN 環境のために多くのアクセスポイントを設置し、学内 LAN 環境を整備した。また、2つの情報演習室 (A204、B201) を整備し、総計 82 台の学生用コンピュータを設置している。教職員・学生は、それらのネットワーク及びコンピュータを用いて授業内外において教育研究活動を展開している。

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

有線 LAN 環境に加え、無線 LAN 環境が網羅されており、教職員・学生は、整備された環境の下で研究・教育に有効に活用されている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 図書館が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 附属図書館医学系分館は、延床面積 2,440 m²、閲覧座席数 226、和書 71,597 冊及び洋書 109,834 冊の蔵書である。視聴覚資料は 124 点、PC 36 台を備え、年間開館日数及び学内貸出冊数は資料のとおりである。(資料 Z-4-3-1、Z-4-3-2)

医学系分館は 2 名の専任職員及び 2 名の臨時職員で運営されている。また、館内には希望図書申込書が設置されており、学生が希望する図書を購入されるシステムになっており、利用者の要望に応じ、適切に対応出来る体制が整っている。

電子ジャーナルにおいては、全学的に契約がなされており、そのダウンロード数は 547,963 である。

(資料 Z-4-3-1)

・開館日数及び入館者数

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
開館日数	341	342	342	343	346
入館者数	108,913	123,041	121,305	99,106	96,049

(出典：大学データ集)

(資料 Z-4-3-2)

・館外貸出冊数

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
貸出冊数	6,476	6,531	7,059	7,338	7,522

(出典：大学データ集)

(保健学科) 保健学図書室が設置されており、附属図書館・中央館及び医学系分館との連携により、保健学科の教職員、学生のニーズに応じて効果的にサービスを提供している。保健学図書室には主に保健学に関連した図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集・整理、配架されており、閲覧、貸し出しを行っている。平成 22～25 年度の図書及び雑誌の貸し出し数は、平成 24 年度から書籍を整理し、書籍を利用し易い所に配置するなど工夫したため大幅に増加している(資料 Z-4-3-3)。また、保健学科図書室にはネットワークを通じて利用できる PC を 4 台設置し、各種のデータベースや電子ジャーナル、電子ブック等が利用可能で、ICT 環境も整備されている。

(資料 Z-4-3-3)

・平成 22 年度～平成 25 年度 分類別貸出統計

区分	H22	H23	H24	H25
0 総記	1	3	1	2
1 哲学		3	4	17
2 歴史	1			
3 社会科学	11	9	29	50
4 自然科学	150	278	842	1,691
5 技術		3	8	14
6 産業			1	
7 芸術	1	1	4	1
8 言語		1		5
9 文学	43	52	45	20
計	207	350	934	1,800

※日本十進分類法 (NDC) で分類されています。

(出典：図書貸出記録より集計)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

(医学科) 全学の図書整備の方針に従って、図書は職員により系統的に収集・管理されており、有効に活用されている。

(保健学科) 保健学系図書室が整備され、図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されている。

以上のことから期待される水準にあると判断する。

観点 自主学習環境が十分に整備され、効果的に利用されているか。

(観点に係る状況)

(医学科) 学生の自主学習を円滑に進めるために、授業時間以外の講義室及び PC ルーム

を開放するとともに、上位の学年には自習室を設けている。また、臨床医学教育研究センターのチュートリアル室（15室）を授業等で使用しない時間帯を利用して、6年生のグループ学習室として運用している。

（保健学科）保健学科では、自習室（4室）及び情報演習室（2室）を整備するとともに、講義室・演習室を開放している。また、各自習室には無線 LAN 環境のためのアクセスポイントを設置し、ITC 環境も整備している。学生は、22 時まで授業以外の時間に有効に利用している。

（水準）

期待される水準にある。

（判断理由）

（医学科）限られた施設及び環境の中で、学生の利便性等を最大に考え、有効な運用を行っており、期待される水準にあると考える。

（保健学科）学生の自主学習のためのスペースや利用時間が確保され、ITC 環境も十分整備しており、効果的に利用されている。

4. 質の向上度の分析及び判定

(1) 分析項目Ⅰ 管理運営体制及び事務組織が適切に整備され機能していること。

質を維持している。

意志決定を行える会議体は適切に整備されており、それぞれにおいて審議事項も明確化されている。事務組織においても各学科に担当を配置するなど、適切な整備が行われ、管理運営にあたっている。また、事務職員は全学や学外で実施される講演会、セミナー及び研修等に積極的に参加しており、スキル向上に努めている。さらに、危機管理に関しては、全学規則等を周知・徹底し教職員の意識向上を図っている。

(2) 分析項目Ⅱ 活動の総合的な状況に関する自己点検・評価が実施されているとともに、継続的に改善するための体制が整備され、機能していること。

質を維持している。

医学部単独では自己点検・評価は実施していないが、全学的な自己点検・評価において実施している。また、医学部運営会議、医学科会議及び保健学科会議などを主体として、継続的に改善するための体制は整備されている。また、後援会等から寄せられた意見・要望等については、該当する委員会において改善のための検討体制が整備され、効率的に機能している。

(3) 分析項目Ⅲ 教育研究活動等についての情報が、適切に公表されることにより、説明責任が果たされていること。(教育情報の公表)

改善・向上している。

熊本大学及び医学部の Web サイトや冊子等を活用し、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーをはじめ教育研究活動の情報が適切に公表されている。

(4) 分析項目Ⅳ 教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され、有効に活用されていること。(施設・設備)

質を維持している。

(医学科) 講義室、実習室は医学教育図書棟に集約・整備され、有効に活用されている。附属図書館医学系分館、医学科教務事務室及び健康相談室(保健室)も同建物に配置され、学生及び教職員の利便性が図られている。

(保健学科) 講義室、演習室等は十分整備され、有効に活用されている。特に保健学系図書室は、学生の利便性を考慮し、図書の配架等の整理を行ったことにより、貸出数も増え図書室の機能が十分活用されている。しかし、身体疾患等のためのバリアフリー化やエレベーターの設置などが今後の課題となる。